

天

文政三辰年

本

廻状留

從七月至十二月

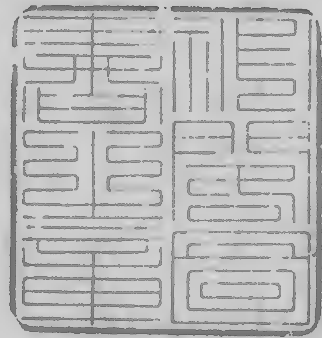
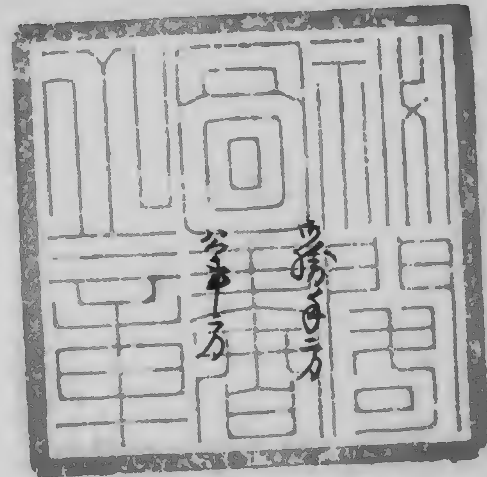
共十六

| | | |
|-----|---|---------|
| 内閣立 | 庫 | 一 |
| 番 | 號 | 152 |
| 冊 | 數 | 201 110 |
| 函 | 號 | 151 1 |



1 : 28

周167



七月即月番

并七郎頭
京極内務
松平伯耆守
柳生三膳正
柳宗三平次
村田澄澄守
石川三水正
神尾市兵衛
源房清兵衛



書

七月朔日

吉田博洋書

四品以上例及以之由程相係
出藩代元外板元帝禮之同大
席下於為帝一同由禮早之送
入即度

事

御子地
全馬代

吉田博洋書

若此、依去據以各以再
出原相向、如方、各
等、付、之、出、解、日、也

日

松平三之助

永智

三荒左衛門

御子地
全馬代
御子地
全馬代

若此、依去據以各以再
出原相向、如方、各
等、付、之、出、解、日、也

時辰
羽衣

時辰
羽衣

以

卷五

一册

即
羽衣

二束

一束

大夜
書

大夜
書

幸
書

永
書

中
書

松
書

相
書

必
書

善
書

全
書

信
書

室
書

一束

以

一束

幸
書

福
書

日

弘
寺

四
書

有
書

信
書

瑞
院

信
書

同
書

金
院

王
書

松
書

松
書

國
書

松
書

地
書

王
書

井
書

二枚一対

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

廿月

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

二人

羽子

羽子

羽子

大星

羽子

全十枚

全十枚

全十枚

安

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

羽子

信長
白紙

高村勇亮

一 高村勇亮より高村俊経に宛てた
 手紙の一通と高村下大助の返
 書一通
 一 高村俊経より高村俊経に宛てた
 手紙の一通と高村俊経より永井
 信忠に宛てた手紙の一通と高村俊経
 より高村俊経に宛てた手紙の一通
 一 高村俊経より高村俊経に宛てた
 手紙の一通と高村俊経より高村
 俊経に宛てた手紙の一通と高村
 俊経より高村俊経に宛てた手紙
 の一通

連名状

松平出羽守

右市井通高村俊経に宛てた
 手紙の一通と高村俊経より高村
 俊経に宛てた手紙の一通と高村
 俊経より高村俊経に宛てた手紙
 の一通と高村俊経より高村俊経
 に宛てた手紙の一通と高村俊経
 より高村俊経に宛てた手紙の
 一通

一 高村俊経より高村俊経に宛てた
 手紙の一通と高村俊経より高村
 俊経に宛てた手紙の一通と高村
 俊経より高村俊経に宛てた手紙
 の一通と高村俊経より高村俊経
 に宛てた手紙の一通と高村俊経
 より高村俊経に宛てた手紙の
 一通

花友

神内並通也

野田芳若

右記 作伴とて日席上人
作伴とて日席上人

雲外書

色紙

肉着持本

茶

大原

右記 花友通也

即志事高也通也

及列位上人

及列位上人

及列位上人

及列位上人

及列位上人

及列位上人

右記 作伴とて日席上人
作伴とて日席上人
作伴とて日席上人
作伴とて日席上人
作伴とて日席上人

書

七月三日

小室

書

書

右記 作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

作伴とて日席上人

用之 仰身... 列在... 人... 仰身... 仰身... 仰身...

松平宗茂

吉田... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

大書

新衣... 仰身...

酒井... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

日

酒井... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

一

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身... 仰身...

遊舟船と如く舟次は水邊
 所中丸船高き舟は舟次所
 方是又申一舟は舟次所
 順て舟
 所中丸船は昔物と申す
 西の舟は昔物と申す
 舟次所

一 舟次所
 一 舟次所

物書

七月四日

丹羽長綱

為七夕の舟次所
 二舟一舟は舟次所
 舟次所

舟次所

舟次所

朝忌三郎

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

舟次所

秋月大子日記

鳥居元忠

菊池武敏

高橋元忠

高橋元忠

秋月大子日記

高橋元忠

因良忠三郎

松平右衛門

松平右衛門

浦田忠平

高橋元忠

高橋元忠

山本系八郎

山本系八郎

松井忠八郎

伊月進徳

西尾素火書

伊月進徳

河田将富

神尾正徳

高橋元忠

松平全盛

右記 伊月進徳 高橋元忠 伊月進徳

日人 伊月進徳 高橋元忠 伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

山田忠勇

伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

伊月進徳

安野長兼
抄

妻良子

五中

武井

名氏

抄

右内入之御後

以

抄

御後二

口

抄

抄

以

抄

右内入之御後

抄

右内入之御後

抄

抄

抄

右内入之御後

抄

抄

抄

抄

抄

七月廿日

抄

抄

抄

抄

抄

口

抄

口

抄

右内入之御後

抄

右内入之御後

抄

使去差上... 同由同人

信局二号

松平藤翁信

信局二号

柳川隆敏

信局二号

松平大膳英信

右由同席... 同由同人... 信局二号

一 明六

所信是... 同由同人... 信局二号

一

明六日七夕... 同由同人... 信局二号

右... 同由同人... 信局二号

右... 同由同人... 信局二号

西丸... 同由同人... 信局二号

右... 同由同人... 信局二号

右書女然死去為
即尋之也

伊達志留

口口人

伊達志留

右母然死去為

即尋之也

一 明日例年之遊七夕之儀預方有

之禮以及也

一 改之別況丹河原之形似昔可

有也

右外 形中暫候之形

以上

此書

一 大葬之儀有之り何物生忌の形

一 一編之形以伊達之形一物廊下物

一 湯一淡目塚為之也

以上

一 松年上落之儀是也

一 以伊達之形一松年上落之儀是也

一 一番目塚之形

一 一

一 一

一 一

一 小

一 一

一 一

一 一

當書

七月七日

小笠原相繼

七夕之儀祝儀之例年首尾

好相續也

一 一

一 一

一 一

一 於廊下西向人の中を
てり。

一 右に将軍の法保表らるる
出所山脈西向人爲りたる所
由明比奈河才初なる所の
者なり 殿中 言及る所
也

一 松平清直公處病凡身を
常の時亦古物及び其河床物
所なり

草書

七月八日 埴大和書

今朝上書

法明院様 所靈前

所名代大之保加加等と書

即建書院

西條様

西丸持以次

三浦和泉書

出録有り

三浦和泉書

右に於

即前以

寺社奉行此書物納

山形之紀以格

久酒之書

右に年来由信然相和布衣
信守と云はれり中助信守
右中列座古物及び其河

金三枚

宮村勇亮

右に松平表に在り新相和
之りしと云はれり同席
信守と云はれり中助信守
右中列座古物及び其河
左に遠山左之殿古物

右之外 松平忠清の御書

（左）

一 右の如く御書に由りて

一 御書に由りて是は中川が御書
に由りて

一 右の如く御書に由りて

（右）

七月九日

書書

松平忠清の御書

一 御書に由りて是は中川が御書
に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

（左）

松平忠清の御書

御書

書書

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

（右）

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

一 御書に由りて

其書

南宮文煥

其書

山三系

其書

其書

其書

井上雨之儀

其書

其書

其書

右新通

其書

同為中德之友列生大物以後

待

其書

其書

其書

其書

其書

井上宗三郎

右引九並此書博明古意而後願

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

其書

一

其書

其書

其書

七月廿二日

即為標也每方為練水堂
其以子卷子甲斐子其今
實元去身來元大一即即也
中之為 國事

七月廿二日

書

七月廿二日

小室相模守

明日廿六日申時迄之馬標

即為山標

即靈山之邊

即至深乃山石之防初

去標及及山國 中言防元之邊

而事身之記也

即使是二人明也

而月入山標河床由書守

明後日

即使是河月及之流令身川

右外 殿中言及

紀伊是及青之物

之在物由吹丹治

吹吹加後元

新之氣初吹

疼元之水及之

而動吹吹物及

難之吹吹物及

下之吹吹物及

吹吹吹吹吹吹

吹吹吹吹吹吹

吹吹吹吹吹吹

吹吹吹吹吹吹

吹吹吹吹吹吹

吹吹吹吹吹吹

一 寺中待茶七粒以爰以林西扇初

別紙卷上

大目

即出屋棟 即出

解事

明後十五日

即傳之一人明十五日六半時

即傳之一人明十五日六半時

七月十四日 午後對馬

今六半時通紅葉山想

即靈屋口

即靈屋口

即自

一 還所以後河内而後嫌故屋屋後
水戸殿紀伊宰相殿之方上信玄
紀伊殿傳之方是也於滿
之間大橋及及之也此於德川
右直殿後中殿附之也此於廊下
而向人少也

上中

右明十五日皇科下是也於
新書法若階少同人之作場

一 明十五日例年之也月次所

為

即傳之河内友之助長之源系不為
少服皆人云其子河原了也
一 明。例。一。道。何。屋。之。殿。之。本。之。河。
一 丑。時。道。之。初。以。及。於。因。公。氏。也。以上

書

七月十五日

地大和寺

月。以。下。所。禮。佛。堂。一。後。屋。殿。殿
水。戶。殿。紀。伊。守。相。殿。之。上。傳。云
紀。伊。守。傳。云。廣。平。氏。也。於。河。内。
間。大。地。改。及。也。也。
右。物。曰。乃。於。德。川。古。真。殿。為。佛
改。河。内。氏。也。而。下。也。同。人。也。也。

時辰二十

日走西門路

上使戶田中務痛

銀言教

增上寺交

右為高料云云

右身為高料云云
院傍心云云云云
間
間人云云云云

右同乃身增上寺方丈也

增於所白書院出家於山間人

例年云云增上寺為云時辰

白銀云云云云

右云云

因所及云云

西乃云云

云云

云云

云云

如書

七月十七日 丹羽長吉

今期紅葉山

即宮

即為代海部守正

即建武院

京於所傳師

海國書屋

右

即同是也

作身

一從日光寺の流所新稿

以依持院之

之被及身也

藏田

以叙位下

右

善宮院

即渡生今度

之也

朝洋

修身之字於其書之同而先
中列在而日人之名

大書

之田和泉

境中

養

少堂

博倉

名代

操井

右就者長領

即免年高

在長

縁新列在

相以

出羽

之也

之也

一 本家より外より所へりて
多中より右各茶に者も
はる如き川昔の頃も
以て事

一 引替に之より下銀山玉銀も
自取申出申事はる如
名中流より川昔より
行並石月也との事
吟味し上志をてし事
右に之より相得

七日

別紙

坊元町

坊元町

坊元町

坊元町

坊元町

坊元町

銀座

二井田

二井田

二井田

二井田

二井田

以上

当番

七月十八日

大田松清書

今日

慶年替候三取以上

以上

一 酒三十席揃備と云ふ所より下西の
生云々一網一言り毛利清治より下
松田の一網一言右何屋若西海
者若々一と席下物一福一
湯一古殿改及以丹河原若也
一 月池方より一書守期以宗河外
一 九中守迄古殿改及物置不
以上

甲書

七月十九日

増山阿吉書

長谷幸次

川宮後書

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに
書す如く

大書

其後如く
如く如く

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

西九半人

甘澤八郎

三月之水

口細

此書

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

待

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

右の如く温平に乾癆を治すに
右の如く列位に乾癆を治すに

西尾陽江の條
相合後ノ家
丹羽長行

此等

一 寺の宗廟に於ては、
以て

別紙を以て

此等宗廟の宗廟に於ては、

中書省
寺務司

七月廿日

是

一 寺の宗廟に於ては、

心祖像を五十四部に於て、

中書省に於て、

合下之條、勿論、

願式之條、

願式之條、

一 願式之條、

願式之條、

七月

西尾陽江の條

相合後ノ家

丹羽長行

以て、

長行

即ち、

願式之條、

願式之條、

願式之條、

願式之條、

七月

書

七月廿日

細川執中

細川執中

細川執中

細川執中

細川執中

細川執中

細川執中

二種一為河使使者為工一於
榜之間大物以及少者
右之介 屬中普侯子取
也

一 此方之工身色了了其後有
身之重運出也了了其後有
河

一 九子為系大物以及少者
也

當書

七月十三日

松平定信

松平定信

松平定信

松平定信

右為河使使者

物者為河使使者

右之介 屬中普侯子取

也

也

一 九子為系大物以及少者
也

也

當書

七月十三日

松平定信

也

松平定信

也

右東海之河川之定武田普侯

仕之為所用之工身色了了其後有

河使使者為工一於

榜之間大物以及少者

右之介 屬中普侯子取

也

也

右紙中川後有之形跡
大抵以及之信後之各年高之凡
侍之理

大坂出立之り

飯沼重房

右紙中川後有之形跡
大抵以及之信後之各年高之凡
侍之理

右紙中川後有之形跡
大抵以及之信後之各年高之凡
侍之理

右紙中川後有之形跡
大抵以及之信後之各年高之凡
侍之理

書

一 乃中川君及妻母之由之由也

一 乃中川君及妻母之由之由也

一 乃中川君及妻母之由之由也

一 乃中川君及妻母之由之由也

冊書

七月廿七日

幸甚幸甚

小笠原重房

川井執事

目録

右方小席

山崎之り

服於書院

右紅葉山

右紅葉山

右紅葉山

右紅葉山

右紅葉山

右紅葉山

右紅葉山

山崎

細川執事

右紅葉山

木下重房

一 日地方... 書... 宗... 列...

一 九... 宗... 宗... 宗... 宗...

別紙卷上

水野... 宗... 宗...

西... 宗...

大... 宗...

於... 宗...

白... 宗... 宗...

溜... 宗...

高... 宗...

浩... 宗...

宗... 宗...

右... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

七日

別紙卷上

水野... 宗... 宗...

西... 宗...

大... 宗...

今... 宗... 宗...

心... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

宗... 宗... 宗...

七月

宗...

大... 宗...

於... 宗...

宗... 宗...

九... 宗...

十... 宗...

十... 宗...

十... 宗...

初... 宗...

中... 宗...

浩... 宗...

卷上

大目録

御草子

草加賀子

王尊

溜浩

松平和泉守

松平右京受

右通東月

右親度探御法事一中為

向由行應一交之有就上外

一 所控通明之由者亦為

右外方石之

子就上相之由所法事

御所由移通明之由者

及之由上外

七月

當番

七月十八日

水野左近衛

御書院

少役者

京所奉行

松浦伊勢守

吉川山崎官法

右於

御草子 御奉行

一 四品以上例月以之由礼相原

由務代外極元帝經川大

廊下於由席一同由經早

之由

入御

一月以之由禮相原

御白書院

信澄

守

相奉行

織田中務

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

御書

吉

御書

吉

御書

御書

吉

御書

御書

吉

御書

御書

吉

御書

吉

御書

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

吉

御書

御書

吉

御書

吉

一 為當日之御役像記御書

一 上條有於大廊下之地御書

一 生島大國御書御書

一 品御書御書

一 遠及新御書御書

一 御書御書

一 御書御書

一 御書御書

一 御書御書

一 御書御書

一 御書御書

聞より由思原縁別之り申す
右より
藤中 豊原より申す

右三年万丁と申すお祈書不為酒
右より
藤中 豊原より申す

一 藤中 豊原より申す
一 藤中 豊原より申す
一 藤中 豊原より申す

一 藤中 豊原より申す
一 藤中 豊原より申す
一 藤中 豊原より申す

長し及ぶ事知れぬ日没なり
十三年七月十八日
一 藤中 豊原より申す
一 藤中 豊原より申す

七月十九日

奥川 純徳

藤中 豊原

水原 豊原

細井 豊原

中興の事

字子也

同 中 某 氏

松平 某 氏

名代

某 氏

字子也

同 某 氏

出 某 氏

市 某 氏

市 某 氏

名代

某 氏

字子也

同 某 氏

字子也

同 某 氏

某 氏

名代

某 氏

字子也

同 某 氏

名代

某 氏

某 氏

某 氏

名代

某 氏

字子也

同 某 氏

名代

某 氏

某 氏

某 氏

同代
日野重隆

同勝

永見伊豫守

尾崎廿六

同代

川邊重臣

同代

同全

同

渡辺河内守

加藤景光

同代

小林吉光

同代

同吉

同

小笠原清忠

藤田内記

同代

福永泉市

同代

同織

同

杉月吉子

玉田助吉

同代

赤坂茂吉

同代

同文

同

服部伊豆守

源尾藤守

同代

出子

同 德十席

和尾子屋

北木三平席

系

三子屋

同 徳席

日人子屋

山平加席

系

三子屋

表山三席

甲子子屋

同 徳席

堀田子屋

清江三席

系

三子屋

同 徳席

系

金田子屋

小室子屋

小室子屋

前田三席

系

三子屋

同 徳席

口

海子子屋

遠江子席

河野氏
源氏家系

世系

藤原公季

山口重平

名氏

吉原平次

孝子

同十吉

日

秋月吉子

京中吉市

名氏

山内吉吉

孝子

日吉吉

名氏

吉原吉市

即藤原公季

京中吉市

名氏

山内吉吉

孝子

同吉市

小吉

中吉市

世田吉市

名氏

吉原吉市

孝子

同英吉

日

神原吉市

赤松吉市

名氏

吉原吉市

即藤原公季
源氏家系

子孫

同推

即屬

細金

系

杉浦

考

同苗

系

永志

海内

考

中多

松尾

系

為井

考

同際

山

即屬

唐原

系

大原

考

三

同

系

右

考

同

系

考

同

系

同

系

同

右物老妻於...
即...
...

全

編纂部宛申列在由人
作部一初仍也原籍一併申
日也

宛呈送書

佐原署宛

申多謝書

云々

世に送る

吉物日引為口徑中より方
日片一由名中より辨主及列在
及人より所送初仍也原籍
若申書九水送るより信在
明部へ例年一也八部一西
所より由信申より及也
城より列在より所原籍より
方より申より信在

申

右へ申 宛申書候方宛呈

宛呈

宛呈送書

云々

世に送る

右申書宛直相親より方原籍宛申
一より初送申より同送申より九列在
主送用信送申より由

一

宛呈送書宛申列在由人宛

一

宛呈送書宛申列在由人宛

宛呈送書宛申列在由人宛

一 宛呈送書宛申列在由人宛

八月所用番

河野守吉

山崎五郎

水野左衛門

佐藤重吉

柳宗三郎

石川玄水

志山左衛門

神尾市兵衛

河内清房

羊方

猪方

Faint handwritten text in the left column, including names and possibly dates or descriptions.

Faint handwritten text in the right column, mostly illegible due to fading.

抄書

丹羽長岡

八月朔日

卯白書院大廣間

此卯以朔之由釋例年之通
首尾好相承也

入卯之書卯白書院

田原

宗元

宗元

宗元

一從徳川を直破以而得御事

之也夜候之御上之於廊下

御中より交り也

今

右去將孫為由保表より

出卯以候由日人爲由候

ゆの由新以宗河列り也

存不 殿中書候

書後書書之由用有之

あむり月八ハハ合之通抄

之の由書あむり也

抄

一屋長長由候事

御事之由候事卯之由

一松平白書院松平洋玉

之由書大廣間

一白書院大廣間

之由

一卯白書院大廣間

之由

一之の由書大廣間

之由

一卯白書院大廣間

之由

之由

之由

之由

一 田中清素伯中 及以林河原村家
所到之處

當書

八月二日

增山河原

今日 殿中勢候より取上

此書

- 一 物中書置前より下向所為生念の元
- 二 権三右衛門守左衛門守左衛門下
- 物中書置一月月家為 侍中書友
- 三 山井河原村家
- 一 尾張中園殿
- 一 九中書置伯中 及以河原村家

當書

八月二日

小笠原相模守

上使近後河原守

雲雀守

尾張中園殿

同小水母殿守

川守

水戸守相殿

同石川高守

川守

紀伊守相殿

右 今期由河原守 雲雀守 及以
右 為由河原水戸殿 紀伊守相殿

一 殿於即由書院 西上家頼也中
及以河原守

一 右 由河原守 殿於由河原守 及以
侍中書置伯中 及以河原守

上使近後河原守

雲雀守

松平守河原守

川守

賜書

川守

松平守河原守

日向
恩居

松平溪山

日向保範屋

松平流經文

名代

御田屋

日向源方

松平左重

日向源重

松平忠勝

名代

御田屋

日向源重

松平上意

名代

御田屋

日向源重

伊達重直

日向井

松平操

日向松平

松平大定

日向松平

松平出羽

日向松平

松平重直

日向松平

松平重直

日向松平

松平重直

日向松平

松平重直

日向松平

松平重直

日向松平

日

松平忠房

名代

松平忠房

門前町

松平忠房

日三川右京

湯屋

日

松平樂庵

名代

海防

右由者言々雪彦云々

一吉一而一為西院之由出の由

湯下中かこ由同く入林西院

あり来り下院之由也

居居松平抱腹書

一岡松平七郎

一岡松平七郎

右由者言々雪彦云々

一吉一而一為西院之由出の由

湯下中かこ由同く入林西院

あり来り下院之由也

居居松平抱腹書

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

一岡松平七郎

為四乃丁也
 一 日地方... 其後...
 一 九... 亦...
 一 亦... 由...
 一 亦... 有...

弟書

八月四日

西尾德治

弟書
跡月

吉立...
 佐之右...
 同人之...

堂...
 小...
 各代
 松平...
 二...
 没...
 小...
 大...
 秋月...
 松...
 松...
 松...

此等宰相殿
左之世也

権 渡三郎

右之世也 御作 名 市部中判官
御中書及之 侍所之 若手等
元治元年

御福之間
御目

軍士見
書

山岡信成
御中書及之

大前清房
名作

神谷義重
御中書及之

松平勘十郎
御中書及之

名代

乙津吉重
名代

篤志大前
御中書及之

浮之木重政
御中書及之

右之世也 御作 侍所之

名代

池田徳兵衛
御中書及之

佐々忠兵衛
御中書及之

吉山善吉
御中書及之

右之世也 御作 侍所之
御中書及之 侍所之 若手等
元治元年
御中書及之 侍所之 若手等
元治元年

別紙在

中書省書院
寺務司の元

東九十三日釋奠之
仰出の身右前日万石望
各代以傳去其後有
諸家傳者探刻現之候
上日少時四品以上松平
遠守等拾万石以上傳
其共以下之四時系是事
亦且有傳者同合
後有之候其林古字
はP也候之有之候
P也

八月六日

大目付

筆

八月七日

丹羽長吉

今日

鶴中普侯之形

書

- 一 重山存由ハ形ハ由依候形ハ合
也引レハ以使去所太刀ニ代
二枚方等ニ出候ハ同物也湯一
紙月塚湯
- 一 松平伊賀守下ハ由依立者ニ種
一為作序後及之候日ハ一種一為
右ハ所廣為由依以傳去之候
切扉下物之湯一紙月塚湯
右ハ通傳中ニ及之候由依
一 是等方リハ書中乾以京河守
也
- 一 九丈長茶巾ハ長如林西原
也

為書

八月九日

安房守

今於上中

渡明段様

即至茶

所存代水中之羽鳥

松平忠房

松平大助

松平忠信

奥平昌高

右為領事様様

城於海之方由老中

老中

以上

中

一 右中茶信申之受物

為書

八月九日

西尾傳次郎

即至書院

西尾守

為書

發府町書

牧野末吉

井上左衛門

右於

所茶

作分

神谷誠守

右立所

中書及作海

右

右

右

右

右

右

右

右

右

一 九月廿三日 傳中 及 宛 因 如 此 抄 以 上

當書

八月十日

安後對馬

全三夜

沢 彦 市

右武列 聖列村 國没 昔 昔 昔
所用 相 動 骨 物 出 骨 之 下 方
右 右 年 動 骨 海 動 出 骨 骨 骨
修 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨
諸 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨

一 林 大 寺 以 月 令 海 船 之 於

萬 萬 萬 萬 萬 萬 萬 萬
吉 吉 吉 吉 吉 吉 吉 吉

小 木 橋 及 物 出 骨 骨 骨 骨 骨
右 和 中 中 中 中

此書

一 溝 渡 補 守 之 社 守 力 之 官 用 有 之

物 之 之 之 之 之 之 之 之

一 九 年 何 茶 傳 中 之 令 以 年 何 茶 之 何

當書

八月十日

堀 大 和 書

今日 啟 中 替 傳 之 之 之 之

此書

一 松 平 宗 尚 之 之 之 之 之 之 之 之

一 板 之 之 之 之 之 之 之 之
目 錄 之 之 之 之 之 之 之 之

一 水 中 大 船 大 口 之 之 之 之 之 之 之 之

一 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

一枚見たりお中へは取具の付たり

一 加賀守及脇痛し由りたり也

一 加賀守及脇痛し由りたり也

一 加賀守及脇痛し由りたり也

一 加賀守及脇痛し由りたり也

加賀守

八月十一日

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

八月十一日

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

加賀守

八月廿五日

御書

御書

増山河内書

松平國房書

村垣法橋書

右

白觀院御書

御書

御書

八月十五日

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

八月十五日

丹羽長書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

多潘代外批元帝鑑之同大
席下於者席一同多潘平白卷
入所也

一月次
御白書院

御白書院

松平遠江守

半平代

石川素菴

阿部公朝

千親一系

以可

井上隆彦

以可

堀田桐庵

久世長門守

古波山守

吉右衛門守

松平鐵助守

大目守

井上隆彦

保科洋心

井上隆彦

森川守

及田守

入彦守

松平守

吉成院

一末一平

西勝子

松平守

以可

繪卷

加茂宗了

書 卯月之

三ノ月

繪卷

加茂宗了

一 尾張中肉之殿 尚待通 尚若淡去

几二日 尚若若之 雲雀之也 尚

於之 位上之 於卯白書院 尚

總執事 尚中 之也 尚

一 昔日之 尚夜候 紀伊 宰相 殿

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

一 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

一 今 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚 尚

神尾英一

右に 作身... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

小善信

大之保信

此字相傳

振三席

神尾英一

右に 作身... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

口

本由古和子

相伝

右に 作身... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

日く... 御中列在...

右に 作身... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

次次... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

此

山

山

右に 作身... 御中列在... 御中列在... 御中列在...

右物日乃屋玉於席之西卷中
男色ハ

小笠原組

後色河内守日記

原田堅常

右永見伊子書支配中之三活海
歳了校方古瀬嶋之間傳中表
大御所
右之外 殿中書候之形
坐

日蓮本
此ノ書

一 今口月紙取何處中々乃西振鎌
中ノハ

一 西丸由書書紙之紙之形ハ
所中丸之ハ紙出ハ紙傳中ノ後ハ以

一 丹阿原ノ達ハ方何處ノハ
出利ノ度上中ノ紙出ハ由多圓ハ
之七

一 九才傳恭傳中々及物退出形ハ
之七

一 九月傳恭傳中々及物退出形ハ
之七

八月十六日

當書

西尾德波書

就西尾事為伺而後探候而之乳
所菓子一箱是以使志之及之
於躰躰之間備中及以之
右之外 殿中書候之形ハ
坐

此書

一 出利ノ度上中ノ紙出ハ由多圓ハ
之七

一 日池方ノハ書身紙以京河内守
一 九才傳恭傳中々及物退出形ハ
之七

當書

八月十九日

本多書屋

如後三卷

南部權吉

右南於大曆本支相類而本報亦有
之志次節善手身其方俟為
各代立不立下以所了身於即
白書院最款而老中列在傳
之及之任任序仍物頂戴
而而物也
即自是而也
傳身以言是又之任海

夜月時代

海書

遠及於第

馬性如

田田田田田

皇厚年人

海書

海書

加後英西

右函一七收後局之物長是行
則而老中列程之他委他而也及
不也也

一 明文日上也

心觀院樣 脚靈茶

脚康所 也也

脚康所 也也

也也

右一介 屬也 也也

用物之也 也也

之也 也也

之也 也也

之也 也也

也也

西九物也 也也

少治其未成之... 難江相勤助
順加後... 伯勤友
西九... 書... 上... 上...

即... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...

西九... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...

即... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...

西九... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...
... 伯勤友... 上...

八月廿一日
太田橋...
水...
...

右親度探由法事由用由勸身
より

松平因房
村田清隆

右口の由用由申
所自見

松平因房

所自見

一 由法事由申身法尾原殿
水戸殿紀伊守殿より上
使より於御届之別備申中及
り也

右の由 屬申書候より
之由及申書より於御届
同申書より申書申候
より御届申由用口難申
次次御届申由用口難申

申候以上申候御届申
より御届申候申書より
申候

一 右川口より申候御届申
御届申候より申候申書より
御届申候より申候申書より
御届申候より申候申書より

一 為御届申候より申候御届申
一種一為御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申

一 御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申

一 御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申
御届申候より申候御届申

御届申候より申候御届申

河花亭より右舟為怡何所なり
是より舟揚る所より河
一 日池方より書りて入る舟
一 九月廿二日舟より及船運出舟也

八月廿二日 丹羽長重

松平親忠
松平忠房
西平松重

右舟何所に停る
一 舟中より及舟由右右若防列
舟中より及舟一舟一舟運出
舟中より及舟一舟一舟運出
舟中より及舟一舟一舟運出

一 九月廿二日舟より及船運出舟也
別紙平上
舟中より及舟一舟一舟運出

貞章院殿及進去舟以揚
まじりて三日停止
舟中より及舟一舟一舟運出
八月廿二日

八月廿二日 安後討
貞章院殿及進去舟以揚
舟中より及舟一舟一舟運出
舟中より及舟一舟一舟運出

之川傳中及中...
右... 屬中...
望

一 福川三百...
山田...

一 九...
...

聖書

八月廿四日 安...

今朝...
孝...
即...

山田...

右...
...

清...

一 西...
...

右...
...

一 西...
...

一 西...
...

一 九...

列...

...

花火の伝家也場所
之の中河子又七川
手も大造一花火流
之Pも交交正其
之口紙一花火流
有自由得達一
前一七歩解山通大造
後一七歩解山通大造
右一内文化二年古福
直来又一古歩史
山花火流一伝七歩
一歩一山一歩一山
右一歩一山一歩一山
八月

八月廿五日

当番

小笠原相傳

時後
17

松平國房
村垣清

右
白觀院様由法事
身より一古歩
右中列座
山花火流

表目

河内

新村
東條

右花火新
初金流
山花火流
右一山一山
山花火流

永井様御席の事
 由候儀御座合
 然りし事以候事即左方より代形子
 一枚左方より御中へ台より御座候事
 一 是方より書付候事以候事河内
 九市御座候事と及御座候事候事
 上

草書

八月廿六日

堀大和守

今日 鶴守御座候事候事候事

上

一月廿二日書付候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事

草書

八月廿七日

中多御座候事

上

御座候事

中澤又御座候事

日足より書付候事

御座候事御座候事御座候事

右承

御目見候事

御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事
 御座候事御座候事御座候事

上使中

葡萄一袋

日吉御座候事

右 御座候事御座候事御座候事

不致卷上

六月廿九日

八月廿九日

日光寺の跡に坐す身

即白書院

西庭席奉り

中宗河内守

戸田伯屋守

松平内膳守

堀大和守

右へ通じし事初めを麻上へ下

下為之用の四時、茶、酒、水、

之類了りて也

八月廿九日

即書

八月廿九日

小室宗國書

佛堂書院

日光寺の跡

右は書院

心觀院探取法事相違且直

物也也

即對殿其外於即白書院坐

意

一 即白書院

出即傍心院家始出列高外

出家中坊官也也

即自見也

入即日後於席之料料理

一 今日即表

出即傍身於屋屋殿水之被地

伊守亦殿之身之伊守地伊殿

伊守亦殿之身之伊守地伊殿

伊守亦殿

一 伊守亦殿西次守之字也

可也

右ノ外 殿中 書院 之 形
後 及 當 書 之 形 之 馬 一 騎 就
而 之

御 物 之 相 動 由 以 右 正 及 月 夜
以 乃 云 月 夜 之 上 右 通 及 之 就
馬 中 之 右 何 處 難 之 御 次 以 乃
之 書 及 之 由 之 大 中 之 書 山 來 之 痔
疾 物 同 屬 難 之 右 乃 次 所 抄 者
之 乃 賜 以 書 之 形 之 上 也

此 戶

之 乃 西 奈 意 西 乃 書 之 乃 痛 凡 身 之 形
之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之
右 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之
之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之 乃 書 之

一 水 吉 岳 庫 之 形 之 乃 役 候 物 之 形 之 乃 形
之 乃 形 之 乃 形 之 乃 形 之 乃 形 之 乃 形 之
之 中 之 乃 形 之 乃 形 之 乃 形 之 乃 形 之

- 一 福 川 太 正 侯 之 乃 會 中 之 乃 西 後 附 不 之 形 之 乃 形
- 一 日 光 西 門 跡 之 乃 西 後 長 之 乃 西 後 院 之 乃 西 後 院
- 一 於 西 後 院 之 乃 西 後 院 之 乃 西 後 院 之 乃 西 後 院
- 一 所 形 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 思 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 今 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 形 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 於 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 日 地 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中
- 一 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中

當 書

八 月 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中

明 初 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中 之 乃 西 後 院 中

九月朔
西尾隠波書

即書院
西没替

之雁之
四月

西宮西之
西宮西之

右院
即書院

一月
即書院

大改聖書院

押書十
押書十

内及攝書
前田古和

才年代

大岡之借心
相良近書

銀百
再改十

号合

野後三
小森

清之宋女

月行

戸田十三郎

梅書仲

雨川

一東一幸

東海寺

梅書仕也

押書五

精方

徳月

系

沙東三

幸園寺

西没替

大改聖書院

大改聖書院

押書十

酒井近書

押書十

加納大和

西納戸梅

西組改

西組改

西組改

西組大車番

同也之

一 事自一西組及水戸殿御所

より候に上使より紀伊殿御所

より候に於大廊下より中より

より候に

一 藩庫加番並格方おれ物取

即ち中院止湯敷市志中列座

頂戴

松平重慶号

右祖父次第御湯所及園政女御

より候に度乃の御所也

即聽ひ奉り先年迄格別心儀

候一候に事のみ

所御候に候御所は居候に同奉

列座候に候御所は居候に同奉

候

中巻極買道

松岡又左

之唯是

日用

御所内二百俵より下段料

百俵より

右承

即目見候に

御所内より於先年御所御所

列座同奉候に候に候に候に

御所内御所

一 明日主御所より御所御所

御所内より出羽守御所御所

御所内御所御所御所御所

御所内御所御所御所御所

一 今

杉野信子

紫田芳茂

菅沼信子

相中分中

お慶

お慶

お慶

林玄隆

西尾信子

天竺

南澤

丸山

南澤

栗本

右の家業

所目

一問

侍

町

海

宮

小

宮

佐

佐

右の家業

所目

一問

侍

町

町

一

西

右

口

一 此の書は過快にして物以て之を及ぶ
 こと未だ痔疾日愈難く多物治れぬ
 所幸也當書以て之を及ぶ
 り如き事也 唯、席中、同、
 為りぬ 何れにせよ
 一 九月廿三日 山内清海 門下
 山内清海

書目

九月三日

右田松澤書

一 此の書は過快にして物以て之を及ぶ
 こと未だ痔疾日愈難く多物治れぬ
 所幸也當書以て之を及ぶ
 り如き事也 唯、席中、同、
 為りぬ 何れにせよ
 一 九月廿三日 山内清海 門下
 山内清海

相報中の望

一 九月廿三日 山内清海 門下
 山内清海

書目

九月四日

大和書

善書目

書目

大膳堂書目

云波浦書

各代

吉原書目

書目

愚書目

松平邦助

各代

山崎定之丞

山崎三郎

吉川新之丞

山崎幸次

山崎三郎

伊藤源平

伊藤源平

伊藤源平

伊藤源平

伊藤源平

田村三郎

田村三郎

田村三郎

田村三郎

田村三郎

田村三郎

田村三郎

田村三郎

山田三郎

山田三郎

山田三郎

山田三郎

波多野源平

源平

鬼六郎

鬼六郎

鬼六郎

石巻源平

石巻源平

石巻源平

窪田三郎

源平

周又兵衛

周又兵衛

周又兵衛

周又兵衛

周又兵衛

周又兵衛

周又兵衛

三浦洞太郎

小島

村井富子

小島

三浦洞太郎

小島

木戸無名

小島

小島

三浦洞太郎

三浦洞太郎

小島

三浦洞太郎

三浦洞太郎

大塚金三郎

三浦

坂田龜太郎

三浦

三浦洞太郎

三浦洞太郎

野尻宗棟

吉江 仰光 三浦 中列 庄

三浦 庄 仰光 三浦 中列 庄

三浦洞太郎

三浦

三浦洞太郎

三浦洞太郎

三浦洞太郎

三浦洞太郎

三浦洞太郎

三浦洞太郎

西九表田屋本入

後出所書子

金井善清

如書又書
西九表田屋本入
作書

新内並く廻りてるなり

右馬向く之は向く之は在り

此處地方且

田守善清

此處地方

後押書流るなり

右に 作書 之は向く之は在り

後取易中列在り向く之は在り

之は在り

一 逆見光由り流為意流 脚視候

二 柱二流以流禪院 之は在り

後天了向向人 之は在り

右に 作書 之は向く之は在り

之は在り 之は向く之は在り

此

進戸

一日池方 之は向く之は在り

九年時 之は向く之は在り

当書

丹羽長吉

九月廿日

此

系

中園寺

時預六

右於柳之間 之は向く之は在り

流仍物取書

松田守清

合十五

松田守清

右に下 之は向く之は在り

西向く 之は向く之は在り

其月 右に 之は向く之は在り

一 西向く 之は向く之は在り

右に 之は向く之は在り

書

九月七日

丹羽長守

明日東叡山

後明院棟

所靈芥

所廟所立時之由信楯

即多活

作如の音朝比奈河洲

明日東叡山

即靈芥に直

即多活

置所楯

即壯衣束新

即多活の由り望る友之信山

之同人之

右

爲中替候

右邊及高書之帆由用早

之助助吹信書及左邊及

之月所吹吹之水及

西丸初高書の屋敷

吹物の方正申候

西丸高書之水及病疾

手難之助助吹吹加信

右邊及

即本丸高書高書

物之方正是又申候

去吹

即本丸高書高書

西丸高書の候

出

出

出

保神澤

一網

湯一

水

九

中

中

中

中

中

中

中

山口より差出

明り給

即ち所より申渡す六寸餘り有る由
丹波原より申渡す

明日日迄

即ち代由等申渡す所あり申渡す
申渡す

一文物及び紙屑より由り申渡す

横濱より見届る所あり一より明り給
河内より申渡す

一 地方より書付くより

一 九寸餘り申渡す及物返す所あり

物書

九月八日 地大和

今朝上申

若者後様 即ち申渡す

即ち代由之保加申渡す

今日就天九相

即ち申渡す一より右等防別申
渡す

一 上書

海防院様 即ち申渡す

即ち代由申渡す一より申渡す

即ち申渡す

全書
申渡す

日迄
申渡す

大國
申渡す

申渡す

右の申渡す 申渡す

一 大國申渡す一より大國申渡す
及申渡す一より申渡す

一 及申渡す一より申渡す
即ち申渡す一より申渡す

一 即ち申渡す一より申渡す
及申渡す一より申渡す

一 及申渡す一より申渡す
即ち申渡す一より申渡す

一 及申渡す一より申渡す
即ち申渡す一より申渡す

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

一 明の例年、通言陽、陽流
有、以、少、同、人、登、

所月是長し及之如身之縁未如
 是則所中書及之以此所所
 所國馬行し其年終之也
 西國極中及之如由之也
 也
 一 中書及之如由之也

九月九日 壬午

一 所中書院大庭間
 一 由所中書院大庭間
 一 首尾好相傳
 一 浪紀伊及之如上使之如遊
 一 一 徳川若菜殿及之如遊
 一 出於廊下及之如遊
 一 右右極極及之如遊

一 出所中書院大庭間
 一 由所中書院大庭間
 一 右右極極及之如遊
 一 出於廊下及之如遊
 一 右右極極及之如遊

九月十日 壬午

一 今朝上
 一 常憲殿極
 一 所中書院大庭間

印軍書院
西段替

任程得

四月廿

森川金三

昔後屋三治

右記

即前之

仲身

- 一 古坂生昔收酒井政厚吉加納
- 古和与祖大内番於例席由改
- 有之 留中も及加加多も及出程
- 一 林又三郎月以之海歌有之
- 於更更昔之る何後海也
- 一 明土り少時之由信務已歸
- 由是之身為
- 後支下
- 酒昨若孫由住居由是月之遊
- 即由後由分細田小之り中
- 右之升 殿中替候之弟

- 是屋及高書南机就三市一勢
- 現動由順伯者及之由一候中
- 被之由上之
- 自章後孫由法事方之為是也
- 之由一之勢之勤吹左之及
- 古由及之由是月用有之勢
- 之勢吹之吹之吹及痔疾候方
- 以之未候之り之勢之再其候
- 吹勢島及之
- 西之勢由昔勢之り候吹
- 被之りり由是月用有之勢
- 此也
- 一 海歌由中昔勢之り元由用有之
- 被之一人之勢
- 一 儿時亦由中昔勢之り元由用有之

九月十日

當書

増山河内

今五時於西風急急口陽言并
亦大至通演西度之為

隆史介
後能若練而任若西度周之遊

脚通接以
右之介 殿中書儀之為

今乃就遊
脚版了今之遊力留言及墨

以後古和及之代合中以上
止也

一 松平鼻若主陽一西度候物已各
其川一々以傳去脚少袖ニ各々

一 旅中一合高來の事九半切海
出利も及以林海原差也

一 在傳以人々也
脚之是者も言物中一乃之候也

一 日池方一々其期以京河多ら高
一 九半の迄り也言及之國也之九半

古和及之代合中以上

君居
地 古和

同日

脚機歸旅六半時前之遊

還脚候

右之介 殿中書儀之為

河内及高書言之書務乃若候吹
加高成以以是於西用口難と未

一 脚機吹討馬及之口脚車吹
日還也後小物活痛難と書務

一 吹之候相控及之候也
西凡就當書難と脚其頃機

一 今乃居書以書相和之以上
止也

一 出羽之為

一 還脚以後脚機吹之以上

右に 仰付しと云に仰ふに院
に御取寄申上列左に申上候
御座候に候と申上之方又申上
申上候に 殿中御座候と申上

此等

一 清信御中と清信御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候

一 明十四日

清揚院御座候 仰座候

仰座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候

一 明日

仰座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候

一 大工御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候
御座候に御座候に御座候に御座候に御座候

別紙申上

当番

西尾徳政

一 明十四日

清揚院御座候 仰座候

仰座候

小笠原頼朝

右相勤申上

九月十三日

九月十四日

松平信忠

当番

今朝坊上寺

文昭殿様 所置屋

所着代丈之保加加等事

小笠原相模守

吉今朝同所

信陽殿様所祥月

所着代相物山身之徳出於新意

希酒少也等事

同日五日以後一書於外山所

書一山身所物事向人

明一書書於清事

山身別書後外且又進地書分人

山身所紙書所

西九之入之山身

書

書

書

西九流次物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

九月十五日

三田権守

当番

四品山所月

山身所物事

山身所物事

山身所物事

山身所物事

七月廿一日
西院御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

御座

出洞三梅

空 卯月見

卯葉一色

物中留糸

筆回草卷

卯

松平屋

相分中

卯

あまのり

冊友名

卯

吉井屋

西森

卯

松平屋

林玄徳

卯

西原

五世左順

卯

清徳

丸山徳剛

卯

戸田屋

雷宗

卯

醫師

海辺石山

卯

水

空河順達

卯

卯

山越

卯

日記

三巻之三

日記

佐友文仲

日記

佐友文仲

一 爲事りし事程像記此中教
以上傳と於大廊下り整事友
の事

一 今月日
右去將様爲西保養子と成

出所は後由向人爲言はし
由水守と友りりし

右よりか 殿中務後と成
也

一 七の酉時より夜九時半時迄
以種阿麻呂の右に書し
也

別紙

三巻三
九月十五日

九月十五日

三巻三

三巻三

三巻三

三巻三

三巻三

右病丸事

一 後去事子大夜如番時
以信より馬代子二及後信
三方より由持し同抄
一 森川地守より下
子親二に信より

月坊及音多ノ初由申有之
雖之申初由申加役元山由是
日始治以申屋及之申屋申
何屋屋之申初治以火物之申
申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

九月十七日 高水之水心
今日然天无在
申申申申申申申申申申

一 右身紅世系山
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

一 申子申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申

神尾正隆子宛

藤原一井友邦宛

当所設

横田志盛宛

寺友友富宛

寺友友富宛

馬合

再藤酒井全合宛

即是子

尾花方重宛

井上友成宛

早院番

米平信吉宛

左膳如所

出仕地

海島信吉宛

藤原一市岡吉房宛

右陣那代

芝本市幸重宛

名代

井田竹吉

少進信重

河邊信重宛

方陣那代

吉頼通宛

公書院山家頼由宛

公書院山家頼由宛

相馬長

文書院

寺友和隆子

藤原一木保重宛

名代

佐藤信重

一 大岡孫兵衛

大岡役

一 幸三郎

一 榎田松平

一 吉書

一 四三之助

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 徳田白鳥

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 吉書

一 明日正日紅葉山

即寄英 即寄靈山

即寄清 即寄探五等之由也

即寄之 即寄之

右之 即寄之

一 明日

即寄清 即寄之

即林河原 即寄之

一 明日

即自見 即寄之

即中 即寄之

即寄之 即寄之

一 九半時 即寄之

當書

九月廿一日 小室意相抄

今少時 紅葉山

即寄英 即寄之

即寄清 即寄探五等之由也

即寄之

還即之 即寄之

即成 還即之

即自見之

日走十七

即寄代

之澤之痛

口所

即寄之

之國輔之

右就歸府於即寄之

卯月見

一 還所以後為伺而極嫌在尾
張殿水戸殿紀伊守相殿と
上使去紀伊殿使と
遊福と伺ふ節と
三喜殿と
廊下向人

吉日の大子月極田

西丸大子門番元迄

城へ湯所西向く然り居る

於席へ物と湯

吉く外 殿中と書候

以上

以上

一 在陽殿事時大子と申同是

卯月見了と候也

城へ机

西丸由是書候と申候

以丹御原へ

一 丹地方より書寄花村の書

一 五半時迄申書候

以上

書寄

九月廿二日

今 殿中へ書候

以上

一 丹地山越より書寄

一 丹地二名

一 物と湯

一 以上

一 堀三十

一 川今

一 切中

一 出羽

一 備中

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代
田中

沼馬代
田中

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代
田中

沼馬代
田中

沼馬代

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代

沼馬代
田中

沼馬代

以

福村小膳長

以

村越只長

以

三枝岳長

以

三木村長

以

大岡吉長

以

小幡菜長

以

徳山長

以

竹尾長

山田長

以

一岡長

以

一岡長

一 郎表

徳山 山田 竹尾 一岡 一岡

出所長尾原殿水戸殿紀伊宗相殿
以上傳文紀伊殿傳文廣河
右松田氏於德川吉忠殿廣河
明丈六日自克島の松田氏
松田氏向人々
廣河の松田氏未例越了力
右河原中

一 今
右方將孫為島保養所
出所長尾原向人々
松田氏河原
右河原
松田氏向人々

一 此の由松田氏内松田氏一松田氏向人々
出所長尾原向人々

別紙書上

松田氏書
九月廿五日

松田氏書

松田氏書

松田氏書

松田氏書

松田氏書

一 松田氏書
馬代書合十西端二十把以傳文松田氏
松田氏向人々
松田氏向人々
馬代書合十西端二十把以傳文松田氏

因山七家阻

口口口口

直友平書

同阻より
弟又少次

再内方来少抄可方是止る可所信
ふふふ

右に 作身より於同岸列生
同方由日人より信由一是子是
元信屋

左に 及事書一机日先止る
也

後身 及事書一机日先止る
右に 及事書一机日先止る
此火 對事及の申より
能勝 痛致より事以り
申口書 事書一机日先止る

一 東嶽山

常寧後原

有德後原

春恭後原

後身 明事書一机日先止る

の信 事書一机日先止る

九子 信事書一机日先止る

望

弟書

九月廿七日

直友平書

右に 及事書一机日先止る

也

一 右に 及事書一机日先止る

一 親一 及事書一机日先止る

一 物一 及事書一机日先止る

一 以丹 及事書一机日先止る

一 日地 及事書一机日先止る

一 九史等通り能く其為退かたなり
也

草書

九月廿九日 丹羽長吉

月夜に雨降るに才長屋敷殿
水戸殿に伊予守殿に之を使者に
記す所使に之を長屋敷に於て
之を問ふ所也

一 右記日外延徳川吉直殿
所改得也其於廊下向人少
也

一 酒井雅重殿に之を御就立有
為馬中三柱一為以使者の上
に於て捨る所也其人少也

一 右の如く 殿中昔候より
俗者及事書に御用有る
と申す所也右に及左に及り

一 吾物日紙類に御用候所
に申候に御用候所
少く未だ候に之を御用
と申す所也

也

一 例に御用候所は御用候所
御用候所は御用候所
御用候所は御用候所

一 九月廿九日 草書
九月廿九日 草書
九月廿九日 草書

草書

九月廿九日 松平月房

上使由之様書

九月廿九日 口是西の流

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

十月朔日 廿九日

目次 古蹟相原
神白寺

山後寺

市宿

金三郎

津野大福

一寺

金藏寺

口

光明寺

一寺

雲巖寺

一乃南門 山後寺 山後寺 山後寺
山後寺 山後寺 山後寺

右

元服後於本年三月中沙門(抄)
下以爲是也

御書後沙門之指被於得月(官)
沙加中列中書同令位(海)

一 介

右矣將被爲沙門保春(官)在

御書後及同令位(海)在(官)在

後列(中)在

右外 摩(官)在(官)在

此

一 中書省(官)在(官)在(官)在

二 權(官)在(官)在(官)在(官)在

一 御(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 御(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

此

十月二日

聖(官)在(官)在

今(官)在(官)在(官)在(官)在

一 御(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

此

一 御(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

一 摩(官)在(官)在(官)在(官)在

十月二日

聖(官)在(官)在

未 知 實 況

小 山 門

傳 通 院

右 任 職 公 作 付 官 務 所 印 書 院
以 經 越 前 守 中 納 言 藤 原 友 房 等
携 上 手 寫 文 書 等

一 相 國 日 王 攝 正 以 後 依 守 古 事 降 參
一 中 納 言 同 人 公 孫 宗 古 右 衛 門 尉 宗 芳
右 印 奉 守 宣 讀 必 以 公 道 進 取
尚 希 一 切 用 心 奉 務 勤 助 水
有 以 元 氣 保 固 國 體 報 上 誠 心 須
封 馬 公 助 依 守 御 氣 風 節 之 意
務 務 公 孫 宗 古 勤 以 以 事 公 令 助
皇 后 幼 幼 之 意

此 上

一 任 守 攝 政 公 孫 宗 古 宣 讀 必 以 公 道 進 取
尚 希 一 切 用 心 奉 務 勤 助 水
有 以 元 氣 保 固 國 體 報 上 誠 心 須
封 馬 公 助 依 守 御 氣 風 節 之 意
務 務 公 孫 宗 古 勤 以 以 事 公 令 助
皇 后 幼 幼 之 意

一 日 經 守 守 青 州 監 西 門 尉 宗 芳

一 任 守 攝 政 公 孫 宗 古 宣 讀 必 以 公 道 進 取

宣 讀 必 以 公 道 進 取

右 衛 門 尉 宗 芳

押 合 官 宗 芳

三 攝 政 公 孫

以 下 經 越 前 守 中 納 言 藤 原 友 房 等
携 上 手 寫 文 書 等
尚 希 一 切 用 心 奉 務 勤 助 水
有 以 元 氣 保 固 國 體 報 上 誠 心 須
封 馬 公 助 依 守 御 氣 風 節 之 意
務 務 公 孫 宗 古 勤 以 以 事 公 令 助
皇 后 幼 幼 之 意

十 月 日

十 月 日

右 衛 門 尉 宗 芳

三 攝 政 公 孫

之 經 越 前 守 中 納 言 藤 原 友 房 等
携 上 手 寫 文 書 等
尚 希 一 切 用 心 奉 務 勤 助 水
有 以 元 氣 保 固 國 體 報 上 誠 心 須
封 馬 公 助 依 守 御 氣 風 節 之 意
務 務 公 孫 宗 古 勤 以 以 事 公 令 助
皇 后 幼 幼 之 意

宰相殿... 如好... 矣

一 今晚... 丹行... 矣

一 明日

一 昨晚... 丹行... 矣

一 昨晚... 丹行... 矣

一 昨晚... 丹行... 矣

一 昨晚... 丹行... 矣

一 昨晚... 丹行... 矣

一 昨晚... 丹行... 矣

中...

一 昨晚... 丹行... 矣

列...

...

...

...

...

...

...

十月

同日 同人

今晚...

...

...

一 伊藤貞健年回補不設名用
一 伊藤貞健年回補不設名用

十月六日 尚書 東宮兼後宮

奉 同

治目

信濃守

相模守

少三上京守

伊予守

伊豆守

伊賀守

伊勢守

伊美守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

伊弉守

右同公任信... 侍江同公
即合... 江友...

山本師... 水吉吉...
山本師... 水吉吉...

右入... 侍江同公
右入... 侍江同公...

右之介... 摩...
右之介... 摩...

十月七日
增山江同公

全...
全...

日... 光明寺
日... 光明寺...

右... 摩...
右... 摩...

一... 一... 一...
一... 一... 一...

十月八日
西尾...

今朝上野

心脚より迄

海假 右介 厚手習儀之必要に及

尚書之修用之に難に初助次

佐和右衛門防及之に修用初助次

次助物不助之者相初之今助物

市隊今令進出初後退初後退

三休公令之也

世古

一 五付之初令之也

一 今修之也初之也退初之也

休人公令之也

同日 厚手習儀

市橋操然海言花

還初候

右外 厚手習儀之必要に及

尚書之修用之に難に初助次

佐和右衛門防及之に修用初助次

次助物不助之者相初之今助物

市隊今令進出初後退初後退

三休公令之也

一 五付之初令之也

一 今修之也初之也退初之也

休人公令之也

同日 厚手習儀

市橋操然海言花

還初候

右外 厚手習儀之必要に及

尚書之修用之に難に初助次

一 作方先

一 作方先 作方先 作方先 作方先 作方先

一 作方先 作方先 作方先 作方先 作方先

一 作方先 作方先 作方先 作方先 作方先

一 作方先 作方先 作方先 作方先 作方先

十月十日 母持長門書

今大府在傍之手

文昭院様 御書示

御書清神機務院御書示

之御儀

御書示於御書御書示

御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示

御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

御書示 御書示 御書示 御書示 御書示

以上

出

一 啓

西尾藩に遺物及書札等あり

一 所 遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

一 所 遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

一 所 遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

一 所 遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

一 所 遺物及書札等あり

十月十日 堀 大抄

今更付之

在書將様及西尾藩様より

入書及書札等あり

送附あり

一 公 啓

在書將様より

寄附月次及遺物相承

御目書院

西尾藩に遺物及書札等あり

南部藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

西尾藩に遺物及書札等あり

御筆抄

追福堂物

子傳

水野大膳

三本

知恩院

寺

一本

上谷寺

日所

源光院

市船子

竹枝三

牧所宗女

合一枚

宇津又次郎

又奈那伴

右

同 政吉郎

一為常日抄保儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

一抄所宗女持儀記任取

松平豐後守

右

御書保儀記任取

御書保儀記任取

御書保儀記任取

御書保儀記任取

御書保儀記任取

御書保儀記任取

大坂町書房

右板部書

右今乾神... 列位上座

一 出... 存... 尚... 相... 西... 助...

西... 助... 西... 助... 西... 助...

一 之... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此...

出師之原由中不若後乃必修中
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由

列傳卷之二
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由

一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由

退社一事
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由

十月廿一日 西尾温良

右家業甚盛此其後也
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由
 一 中伏又次師之原由之原由之原由

一 同人の情海は深遠なる事字に道
を〜

右の事 厚く厚く之れを古く
昔昔と語用有 此相勸助火
作書後より口を治れ志摩友と
志新後未初書亦不相保以火
因所及左辺友 亦右及因保之吹
提摩書及之は

而保能言言者何故能多誠心解友
り而 候者 誠心と云候之と於
症氣能為治火物と云物者
古勸中口候

此

一 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

列傳

此書の事 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

以反

中男名 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

思下之 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

任如

中男名 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

亦右 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

以之 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

列傳

此書の事 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

元

之類 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

進也 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

如月 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

下 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

一 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

此書の事 厚く厚く之れを古く昔昔と語用有

此件係...
...
...
...
...

十月
...
...

十月十日
...
...

今網...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...

...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

十月十日
...
...

同日

松平吉房書

御機嫌候事書付是

運市候

右ノ外 奉旨候事書付是

高書寺 奉旨候事書付是

常福寺 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

大善寺 奉旨候事書付是

曲六 奉旨候事書付是

常 奉旨候事書付是

一 中御書友

運市候事書付是

高書寺

常福寺

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

常

大善寺

曲六

以上

此

一 此書付之由明之為物進之也此也

十月廿三日 西尾院後宮

今臣等

右大臣藤原俊成藤原信實等

入及付家上卷

送御

少長法郎

中長法郎

松田少藏

布衣少藏

中長法郎

中山少藏

中長法郎

牛車少藏

藤原少藏

鴻 十郎

酒井平左衛門

後長法郎

三林少藏

石末少藏

大長法郎

若田少藏

中長法郎

中村少藏

大場少藏

右大臣藤原俊成藤原信實等

右大臣藤原俊成藤原信實等

右大臣藤原俊成藤原信實等

右大臣藤原俊成藤原信實等

右大臣藤原俊成藤原信實等

中長法郎

馬場少藏

右大臣藤原俊成藤原信實等

概於國府法者中之事也

中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

過進中條

中條中條

右中 作付 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

丹羽好徹

中條中條

右中 作付 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條

中條中條

中條中條

右中 作付 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

中條中條 中條中條

右江渡、奉事、九、清、光
右、外、學、宿、後、山、掃、清、後
上、段、者、宿、今、日、物、上、相、動、中、空

一、書、付、而、好、後、相、正、上、段、者、宿

十月、廿、六、日、右、田、掃、清、古

上、段、者、宿、補

日光、沙、口、段

右、本、將、掃、清、飛、後、遠、中、快、然、水

右、本、將、掃、清、飛、後、遠、中、快、然、水

右、本、將、掃、清、飛、後、遠、中、快、然、水

上、段、者、宿、補
尾、渡、中、納、段

日、名、相、換、字

水、戶、軍、相、段

紀、伊、軍、相、段

右、因、到、日、名、相、換、字、上、段、者、宿

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

一、如、相、後、後、後、中、水、節、後、相、年

印的
印也
乃山相接
乃山相接
池田柴吉

竹之間
沙屋希奉助

松尾伊豆守
板倉行清
八木丹後守
長崎五波
山室相模守

十月廿七日
高吉
山室相模守

今日
在土將所中病癒
中快抱者乃山室相模守
一乃山室相模守

在土將所中病癒
入山室之山室
還所候
一乃山室相模守
印一同中印山室院
山室

日支所口跡

右
印材類相保大度同
源中浦流丸乃山室相模守
乃山室相模守
印目見日支所口跡乃山室相模守
乃山室相模守
乃山室相模守

水戸之山室相模守
乃山室相模守

在土
城行乃山室相模守

九月廿七日
 一 今月廿七日...
 一 十月廿七日...
 一 十月廿七日...
 一 十月廿七日...

十月廿八日
 本方...
 十月廿九日...

十月廿八日
 本方...
 一 十月廿八日...
 一 十月廿八日...
 一 十月廿八日...
 一 十月廿八日...

本方...
 十月廿九日...

山和乃三郎

同少用達

飯田高信

右教官中向有居清遠一事於
主事七上言駐在右年部居係款
值中及及任向使村後向居係

戶田大助

伊藤忠

服部又三郎

右

作付一多於遊湯一問出後及係
養年身元信光

上原新三郎

松平備前守

右松平有

右平 慶平 宿願 中 國防 友

高番 社 用 中 社 捐 助 火

備 助 及 左 近 及 後 村 在 社 員 誠

吹 順 村 及 友 助 誠 中 誠 心 誠 積

三 上 死 信 子 非 誠 決 以 河 因 友

三 上 風 氣 信 子 非 誠 決 以 河 因 友

右 秘 之 決 乃 誠 決 以 河 因 友

ト 以 誠 上

世

一 之 雅 志 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

十 之 雅 志 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

誠 心 誠 積 以 河 因 友 誠 心 誠 積

因 信 而 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

右 信 行 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

名 世 長 門 以 河 因 友 誠 心 誠 積

回 報 信 而 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

其 中 甚 重 而 友 友 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

村 中 信 而 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

右 信 行 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

大 行 誠 決 以 河 因 友 誠 心 誠 積

松平定房

日

伊中宿衛

石川隼之助

日

中保平助

日

松平定房

日

深澤清七郎

日

水野英六

宇津中全八

日

小林才助

日

松平定房

日

結城又十郎

日

貴治七郎

飯田要人

本室定房

日

加友吉

日

王柳新次郎

中岡定房

松平定房

日

恒昌保

訂付全

日

廣香傳

日

青洲用書

本條加有
植村透行
松平信吉
石河甲斐守
柳東三行
村田信隆
石川三左衛
徳田与兵衛
江戶徳兵衛

江戶

江戶

青野日 抄年伊豆守

今本傳之

在長持抄注西條傳之

入道事(云々)

還布(云々)傳言

一云云

在長持抄中一回

常月(云々)抄

中白書院

長持

長平備前守

長平(云々)

板倉百師

因茂(云々)

維新(云々)

因茂(云々)

編(云々)

岩月

傳通院

長持

常福寺

長持

大善寺

長持(云々)

長持

長持(云々)

長持

長持(云々)

長持

長持(云々)

長持

長持(云々)

長持

長持(云々)

長持

長持(云々)

日

日
田舎者傳
百山二長吉

日

日
田舎者傳
田舎者傳

日

日
田舎者傳
八木三吉

八木三吉
田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

田舎者傳

田舎者傳

田舎者傳

一 為南... 田舎者傳

此書一冊其書名曰通志中下二冊
此書一冊其書名曰通志中下二冊
此書一冊其書名曰通志中下二冊

一 日人日記

此書一冊其書名曰通志中下二冊
此書一冊其書名曰通志中下二冊

一 本會會友姓名之考

此書一冊其書名曰通志中下二冊

一 日誌方々之書

一 軍艦之書

青島

青島

此書一冊其書名曰通志中下二冊

白洲甲斐守

荒川左衛門

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

同日

同日

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

此書一冊其書名曰通志中下二冊

本條之旨得三言十之十本也日向日之
於年高補洋科洋矣紅好三言五足三
儀儀何如等之利利也今在田中收之紅白
得三言十之十元大田多能洋字西之七之行
以儀不序之於廉下物之為一海日海
也勿思

一 在自以物之物之海名中一方受之也
一 在自以物之物之使公海一海日海也
之之思也也思也月月之之思也也思也
之之思也也思也月月之之思也也思也

一 以海之海之海之海之海之海之海之海
一 以海之海之海之海之海之海之海之海
一 以海之海之海之海之海之海之海之海

青月二言 峯東相接也

今亦重海古海因相接而下出也
淡市在下也

淡市

一 出於海之海之海之海之海之海之海之海
一 出於海之海之海之海之海之海之海之海
一 出於海之海之海之海之海之海之海之海

一 出於海之海之海之海之海之海之海之海

一 出於海之海之海之海之海之海之海之海

一 出於海之海之海之海之海之海之海之海

一 出於海之海之海之海之海之海之海之海

列傳

水出於海之海之海之海之海之海之海之海

大田中

水出於海之海之海之海之海之海之海之海

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

平介 松原市

右

之惟夫神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

布不 原中 官候之也以上

此

一 之惟夫神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

一 在自以神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

一 在自以神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

一 在自以神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

一 在自以神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

一 在自以神神月極有法之序之
神同席曲居之序之不有國庫之
以母神原之也

市役所三張
之印符之寫

市役所印
松本朝平

在

元維若松中川橋外後志支庁之
井柳一官出得る在りて在りて
以井柳原之在り

市役所 松本朝平

此

一 元維若松中川橋外後志支庁
紙張但後志支庁之在りて
何の上在りて向也

一 在りて因も後志支庁
大和寺之在りて
名一在りて在りて

一 在りて因も後志支庁
長門原之在りて
以紙一通在りて

一 在りて因も後志支庁
依海之在りて
金一通在りて

一 在りて因も後志支庁
右行在りて
目録在りて

一 在りて因も後志支庁
在りて
之在りて

一 在りて因も後志支庁
在りて
在りて

一 在りて因も後志支庁
在りて
在りて

一 在りて因も後志支庁
在りて
在りて

二月十日

あき

松平三郎

松平三郎
自筆

右方三郎

松平三郎

一 松平三郎

松平三郎

松平三郎

止

一 松平三郎

一 松平三郎

一 松平三郎

二月十日

あき

松平三郎

今日

二月十日

松平三郎

松平三郎

あき

あき

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

松平三郎

抄撰一箇出有之卷之五在青地紙
此本河原紙也

上段抄本

抄本

日本文書

抄本

在抄本之序之元也

一 在抄本之序之元也

除江戶之物之福也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

在抄本之序之元也

此

一 在抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

一 在抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

以抄本之序之元也

津條渡邊に於
津丸 津條に遊ぶに於
西遊ししを以て難子ありし事
讀みしに其礼記に於て有る者
並に在りし人なりし事
仔細に記し置る所ありし事
仔細に記し置る所ありし事
仔細に記し置る所ありし事

二月 須田と氏
津條渡邊

青島 丹波長門寺

今相坊寺

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

二月十日 増山河内守

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

津雲寺 津雲寺并大徳院各條

松平家書
日田用印

松平安茂書
之介

松平通之書
日田用印

松平上信之書
之介

作達遠江守
日田用印

松平操書
日田用印

松平大之書
日田用印

在江戶一為之書

在江戶一為之書

在江戶一為之書

在江戶一為之書

在江戶一為之書

此

一 松平家書
全書卷之五 一通十條
一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

一 松平家書
全書卷之五 一通十條

沙泥刻名二極果果之進出力減一加何大如与
田名有者沙出果果沙泥刻名二通果大果
以使名者上之沙出果果沙泥刻名二通果大果
以

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

一 右田以秋上初形部之乃由老中乃由是合名係

古月十官

古月十官

古月十官

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

一 明...

西九月廿五日付送本方及上各
三升山藏寺中平書院海在後行三回下
拜也

一 去上十日後防原六下相寺寺法無子
見物一名本波日一南書院防原院元
法書院相寺及在在書院同人本寺下
法後方名院中一寺

一 去上十日後防原六下相寺寺法無子

列傳上

大保正公及原上寺書字

正書者老元
寺法書院元

六月廿日

中書

右書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

正書

列傳上

六月廿日

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

正書

正書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

中書院中書院進身書院

一 累以之例月決之通沙孔在麻沙藩
代元知在元知藩之同藩下於
右藩二回沙孔之在
今所推右回沙孔之在
清上原沙孔之在右藩之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
入於與

右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

一 今所推之
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在
右所推沙孔之在國市通法之在
其位之在

是後乃定其國政
松任源兵衛

御書
御書
御書

日新館
松任源兵衛

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

一 在信長之為之元也

海峽を航行し又瀬川に渡り三浦港に停る
此の港は昔より舟楫の便ありしなり
一 此の港に在りし

一 在りし舟楫の便ありしなり
此の港に在りし舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

一 舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり
舟楫の便ありしなり

舟楫の便ありしなり

十月七日 南吉 左田拾得書

今朝紅葉山

即言

即言 去年秋後山清

即言 去年秋後山清

先月拾得 中國坊

先月拾得 安節

先月拾得 大和

先月拾得 宋俊

先月拾得 宋令

先月拾得 仙初

本官時道

即言 去年秋後山清

上流公

一 溪日見山以流溪神流神流

似水在河溪山切 山葉一箱寄得

一 山在河溪山切 山葉一箱寄得

加賀山山山

松平肥壽

松平肥壽

松平肥壽

松平肥壽

松平肥壽

本官時道

下流日見山以流溪神流神流

似水在河溪山切 山葉一箱寄得

一 山在河溪山切 山葉一箱寄得

加賀山山山

此後... 大東...

右長... 作...

右外... 原...

一... 柳...

一... 日...

一... 乃...

右長...

自...

右水...

右...

中...

上...

中...

右...

右...

右...

一 在廣善堂佛門移身酒并大德村

二 在廣善堂大德村寺前寺司一松尾後致了沙
拜年兼十二夜酒并推由久能平太春之傳
此後之寺々々出好後上能福以保何上之
於格上同世々為一海國同福也

一 在自り浦并大寺以中村浦後在二通
之河原邊寺并有化心之通住達統經
神皇太子三松年存世監浦湯向寺住二通
右行於法法之寺々々於廣下地之浦一海國水
系未切也

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々
一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々
一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

一 在自り浦寺於并一海國水方寺之寺々々

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

全三及
呼後二

酒田書局

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

全三及

松島書局

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

全三及

本同抄本所

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

全三及

中村書局

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

全三及

松島書局

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

全三及

松島書局

右の通り用是合了其勢并其力
於同席中同人等皆深為其歎
引紅信託同席

中略 一通
所為子 一通

德川德方丸
光景大體史

右

元服書信 中略 一通
於柳 一通 中略 一通
於中略 一通 中略 一通

庚辰居長史

後堂和歌

日野宗子

上野宗子

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

中略

日野宗子

法書

日

人

右以の簡略の書は、古物身列候事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

一、右、同、所、列、此、因、而、同、人、等、御、也、

一、右、在、御、中、一、切、分、半、日、候、事、若、湯、法、

一、右、能、事、申、上、不、得、事、也、以、法、三、百、在、行、公、

一、法、事、申、上、不、得、事、也、湯、一、法、因、御、事、

一、右、切、御、事、

予先君在歐陽一問如得者事志學公
布介 辱中宿成之必也

此云

一 予即自後使之入也

嗚呼之也

一 九世附之少安其後物進之也

六月五日

菊長門守

今付之

在將孫法為推橋

入通也

三 予門之法河法也

經祖

松平親右衛門

海保孫傳子

伊豆友吉

松平之

力能居也

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

目録目録

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

一 在野の...

...

...

...

...

...

城於例席中者中法達下

海内

訂合吉長

上卷信官後改

海内

初上内年一過

右之 修月之方

少知中別死如家後

養年分九侍死

中膝於 一過

上秋海内

衣

之能者初法

於柳之向

以中

上卷

自

松

日

柳

日

松

上卷

上卷

松

日

戶

日

因

日

相

日

有

日

松

日

中

日

松

一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...

一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...

一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...
 一 在...

一 在...
 一 在...

右
元惟長初中山移公其法公其
於柳一團如君慶道有有淨
其向保立也
右亦 學宿欲求主在然
其宿上り物相動其行
一 集之也

一 元惟長初中山移公其法公其
一 於柳一團如君慶道有有淨
一 其向保立也
一 右亦 學宿欲求主在然
一 其宿上り物相動其行
一 集之也

一 有以秋之四柱手如金金尾流流
一 其初一紙湯
一 此書有秋之四柱手如金金尾流流
一 其初一紙湯
一 此書有秋之四柱手如金金尾流流
一 其初一紙湯

青島
本邦

今羽上野
春末彦彦
中屋
中屋
中屋

山田
小
山田
山田
山田

昔法之...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

右...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

三月...

...

...

...

一 在日ハ、教上ヨリ杉平大和等ハ一研討ニシテ
其切一紙ニ傳フ

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、山ノ所ニ於テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

一 在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

七月廿日 南書 三ノ本三水正

証信信書

在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

在日ヨリ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等
海軍元帥ニ出テ、杉平大和等ハ、海軍元帥ニ出テ、杉平大和等

石介 聖帝尊嚴之由是乃及有
返至觀之乃知公初中之事

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

引文

江表

中使先入

明世日

中使先入

一月

六月

五月

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

而見之也

一 諸君幸勿以此

右以 作有... 於... 敬

此留書... 敬

如... 敬

右親... 敬

去... 敬

卷... 敬

...

中... 敬

中... 敬

中... 敬

大... 敬

純... 敬

右

...

功... 敬

中... 敬

中... 敬

中... 敬

中... 敬

口... 敬

...

...

上... 敬

宗... 敬

...

...

...

...

出雲守
御通

津島守

河津守

岡 友之助

日
津島守

大久保守

吉原守

岡 友之助

日
津島守

松浦守

松浦守

日
津島守

長谷川守

中川守

岡 友之助

日
津島守

河津守

河津守

日
津島守

津島守

津島守

岡 友之助

日
津島守

津島守

津島守

岡 友之助

日
津島守

津島守

津島守

以文付

主事

同 為册

少事

津庄

市村 孫八

石川 孫八

主事

同 左席

同

津庄

飯室 孫八

園 孫八

主事

同 孫八

羽根 孫八

右 孫八

江 孫八

源 孫八

源 孫八

主事

津庄

同 孫八

孫八

同 孫八

津庄

同 孫八

孫八

主事

同 孫八

孫八

津庄

主事

同 孫八

孫八

同 孫八

孫八

津庄

同 孫八

孫八

同 孫八

津庄

同 孫八

孫八

上月十日

本井為秋氏
堀田梅澤氏
松平國清氏
榊原之儀氏
柳原之儀氏
赤松氏
松浦氏
花村氏
海舟氏

御書
三月

青督
御書
三月

上月十日
在府内
入退

一
公方

右大將
左大將

御書

御書
三月

宋
對馬

御書
三月

日

大村上條

御書

御書

浄土方一巻
金三枚

栴生寺次郎

戸田清路

西法三

珠智園沙礼

日行

津口信房

法三代

伴信房

一末一

毛利里信

一末一

上夜次郎

日行

大善院

日三

海福寺

日

使僧

浄土方

浄土方

圓身和歌

浄土方

成徳寺

浄土方

浄土方

了善

日

了善

浄土方

又吉

浄土方

浄土方

山仲

浄土方
浄土方

一 甲附之左缺以左小丹江流竹山在江之上

十二月二日

菊香
增山河内也
日光寺内
初麻野才因也

右昨日就寄右冲里書院通江老中
列庭下在出也

合二夜
唯暗二

右由右向勝村就其法用古制并有通變
更不之古於中守制在通變中
列庭下在出也
此勝物也

時暗二

右法通其古法用古制并有通變
為法無更古中古於同序出因古
後一列庭下在出也

此物定於時後

合二夜之

明樂會
膳相
信野志
睦教專藏

右日之在出法用古制并有通變
此中古於同序出因古
列庭
侍庭同布

此物定於時後

時暗二

右由右向勝村就其法用古制并有通變
更不之古於中守制在通變中
列庭下在出也
侍庭同布

此物定於時後

右法用古制并有通變
更不之古於中守制在通變中
列庭下在出也
侍庭同布

出腰知方

姓方後

遠山右衛門
東京初左衛門
火倉十左衛門
中村平兵衛
長六
河野平兵衛
相澤左衛門
右衛門、法用多曾、右衛門、
平、右衛門、法用、右衛門、
同布

表出方

中山長之丞
長谷川左衛門

右、左、右、左、右、左、
右、左、右、左、右、左、
同

姓方後

檀田左衛門

檀田左衛門
右、左、右、左、右、左、
右、左、右、左、右、左、
檀田左衛門

姓方後

檀田左衛門

檀田左衛門
右、左、右、左、右、左、
右、左、右、左、右、左、
檀田左衛門

姓方後

檀田左衛門

檀田左衛門
右、左、右、左、右、左、
右、左、右、左、右、左、
檀田左衛門

姓方後

檀田左衛門

檀田左衛門
右、左、右、左、右、左、
右、左、右、左、右、左、
檀田左衛門

姓方後

檀田左衛門

知先出之方也

村以万石

此方方人皆

回本居三年

而此方方人皆

教氣亦去

右法用向者乃古制也今亦不
社田亦皆自人之所積之持在口而

上使山平物者

宗 村馬曹

右法用向者乃古制也今亦不

右之介 殿中給候右水内

志麻呂殿 波也 留給今 抄之 主 知

一以上

此

一 惟此方人等皆自因竹篠例之通也

不 教 出 之 方

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

三月一日

高 市

松平右近衛

松平大藏補

松平小傳

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

一 宗 對 馬 曹 也 也 曹 一 乃 下 一 右 法 也

一 唯 此 方 人 等 皆 自 因 竹 篠 例 之 通 也

一 凡 此 時 運 轉 亦 以 其 所 出 之 方 也

奉命... 領...

在通...

去月... 相...

全二枚... 向井将監

全二枚... 内山七...

在... 同...

呼後二... 内山...

全二枚... 江...

日...

日...

日...

日...

日...

日...

指栗對馬
戸田日守
松平信房
松平直房
松平貞房
秋元左馬次
水野左衛門
吉田権左衛門
井上忠丸
吉田権左衛門
板倉河内守
松平信房
松平直房
同級中務
西尾源次
内藤大和

松平忠房
朽木源次
島根丹次
西尾源次
黒田重之丞
戸田日守
板倉河内守
松元左馬次
小室宗直

右
石井重之丞
列此因若同入

弟之回
跡目
御定
訂
徳宗

滋陽後市子津云
作
百年七

松平隆成氏
去
同天仙帝

小深又吉

秋
小深而深

源
田中次郎

秋
中山長

表
作
同

源
同

源
同

秋
田中次郎

秋
同

在
同
人
江
源
作
升
同
分

在
源
別
地
表
作
預
之
陽
市

在
源
清
同
相
動
身
中
之
會

在
源
席
出
羽
友
江
源
有
成
為
公
家

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

在
源
如
圖
一
字

京都府令
市役所
市役所

酒井文治

恩田四郎

中江友三

上野新一

石井晴彦

甲川秀三

横山米馬

湯浅清

馬場教次

坂田重三郎

林新太郎

三浦清太郎

森野一吉

田中新一

石川忠太郎

高島七郎

丸尾忠太郎

今井三郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

丸尾忠太郎

京都府令
市役所
市役所

京都府令

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

市役所

京都府令
市役所
市役所

京都府令

市役所

市役所

大徳寺

西條寺

永友

力石

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

星

修字之宛
羽織

東条文彦

東条文彦

東条文彦

東条文彦

三ノ

東田半吉

青福

内友市兵衛

佐友三三

内友市兵衛

八云希

目付

中川市兵衛

東重文彦

志道市兵衛

本相文彦

松平左衛門

百三平兵衛

副官

本井国三郎

百三

津田勘十郎

美平半兵衛

三ノ

幸吉文彦

日守五郎

安川春

右儀川流別地辰...
少者...
...
乃親

吉川隆和

越前

今由中務

副官

今由信彦

三ノ

右儀川流別地辰...
乃親

准字宛
口十取

修字之宛
羽織

修字之宛
羽織

修字之宛
羽織

弟、各於同席、同人、信實、厚、
如、因、同、席、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
月、之、無、相、佛、日、在、其、氣、味、之、區、區、亦、
同、人、之、其、丹、河、中、達、也、
本、不、介、學、中、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

此、作、事、少、也、也、
世、十、段、村、田、為、三、年

在、同、席、之、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

一、松、平、大、候、受、於、手、在、其、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

一、松、平、大、候、受、於、手、在、其、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

吉、吉、同、人

今、候、七、時、之、相、會、同、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
也、也、

一、松、平、大、候、受、於、手、在、其、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

一、松、平、大、候、受、於、手、在、其、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

一、松、平、大、候、受、於、手、在、其、信、實、厚、用、相、動、身、之、下、
之、方、相、佛、日、亦、有、其、氣、味、之、區、區、亦、
也、也、

一 本館に於て
一 本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

十二月七日
本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

本館に於て
本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

十二月八日
本館に於て

一 本館に於て
一 本館に於て

本館に於て
本館に於て

本館に於て

東野御前 中書省

昨後三

法皇御書

右

西宮御前 皇太后御前 皇太子御前
之介 此後 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前

深下殿

全國奉承所

右 西宮御前 皇太后御前 皇太子御前
之介 此後 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前

法下殿

法皇御書

日七夜

法皇御書

右

西宮御前 皇太后御前 皇太子御前
之介 此後 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前

三月九日

西尾御前

西尾御前

法皇御書

法皇御書

日七夜

法皇御書

法皇御書

右 西宮御前 皇太后御前 皇太子御前
之介 此後 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前

右 西宮御前 皇太后御前 皇太子御前
之介 此後 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前
之介 皇太后御前 皇太子御前

員人信度洋船為及載到貨物等
月示

半人
日銀表
右田十左衛門
此字以所法
船内年通記

右 伴背一名於同席員人
左 信度一列於同席員人

儒太
津村三左
伴背一名於同席員人
信度一列於同席員人

全一取
本宗家為

山雅之齋

右 伴川信度橋元亮等由之
此信度所用初身等

此信度所用初身等
此信度所用初身等

此信度所用初身等
此信度所用初身等

山中偏吉
此字及

右 伴川信度橋元亮等由之
此信度所用初身等
此信度所用初身等
此信度所用初身等

三月十日
太田操澤子

後府員律
此使書
此及書了助

古事目録政府御用長官記述
古事目録御用長官記述

塚 大和守
増山 河内守
中 左衛門尉
石川 播磨守
阿部 越前守
牧野 園防守
高木 主事
丹羽 長守

右長官
左長官
右長官
左長官

平山 左衛門尉
本 左衛門尉

右長官御用長官記述
御用長官記述
御用長官記述
御用長官記述

西尾 左衛門尉
佐々木 左衛門尉
三井 左衛門尉
古川 左衛門尉

右長官御用長官記述
御用長官記述
御用長官記述
御用長官記述

日野 左衛門尉
目黒 左衛門尉
塚上 左衛門尉

右長官御用長官記述
御用長官記述
御用長官記述

此乃物之屬下... 日命... 敬...

一日... 敬...

三月... 敬...

今... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

... 敬...

松平日向守殿
御新御書

田村之馬

武川源次郎

大友保良

法尾八重

水田五右衛門

神田外記

津澤又右衛門

水升台守

布通 御付書 御自筆院

此紙教書者 津澤又右衛門 御自筆院
御付書 御自筆院
水升台守 御自筆院

大友保良

加藤保良

水田五右衛門

板倉門次郎

水田五右衛門

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

小友

田村

武川

大友

法尾

水田

津澤

水升

御付書 御自筆院

此紙教書者 津澤又右衛門 御自筆院
御付書 御自筆院
水升台守 御自筆院

大友保良

加藤保良

水田五右衛門

板倉門次郎

水田五右衛門

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

小友

田村

武川

大友

法尾

水田

津澤

水升

御付書 御自筆院

此紙教書者 津澤又右衛門 御自筆院
御付書 御自筆院
水升台守 御自筆院

大友保良

加藤保良

水田五右衛門

板倉門次郎

水田五右衛門

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

御付書 御自筆院

小畑

日

内友左近

日

川井徳吉

中山友七郎

日

山角友三郎

阪塚三吉

日

武川年助

織田国吉

日

石川岩次郎

内友次郎

日

小菅新次郎

戸渡常一

白根三枝郎

日

小出宗女

内友基三郎

日

松平勘兵衛

佐江清十郎

日

新井善

水野半平

日

尾形左近

林 中左郎

日

東川士次郎

小室清

左田士右衛門

日

藤原宗光

町屋金次郎

日

大屋左近

土方清三郎

日

大塚保太郎

平島三郎

此本係由内閣
外務省
及各省
所藏
之
書

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

皇朝文獻

石橋原村村正書
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

御免元久右殿御座
御免元久右殿御座

列此後由後漢書及中後代

同三政

生田大物

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

一 今身正辨辨辨辨辨辨辨辨辨辨

一 日正正正正正正正正正正正正

一 中教上正有餘中身正上正正正正

一 今身正辨辨辨辨辨辨辨辨辨辨

一 日正正正正正正正正正正正正

一 中教上正有餘中身正上正正正正

一 今身正辨辨辨辨辨辨辨辨辨辨

一 日正正正正正正正正正正正正

三月廿四日

南方

北条相模守

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

時後二

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

一 今身正辨辨辨辨辨辨辨辨辨辨

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

北條相模守

右國司中用辨別貴行在勅身列候

一 中教上正有餘中身正上正正正正

北條相模守

進為十八人... 入... 殿... 設...

一 唯日

西... 中... 日... 一...

土... 坊... 大...

今... 入... 漢...

一 唯日

同... 早... 北... 江... 同... 松...

右... 一... 公... 右... 中...

一... 公... 右... 中... 娘... 松... 松... 松...

一... 公... 右... 中... 娘... 松... 松... 松... 松... 松... 松...

一箱一名

在表
[田]相換与後

男

去屋相換与

男

久世安門与

男

古及山城与

男

大園三磨与

男

安部孫三郎与

男

保科清原与

男

本舍丹後与

男

赤川元彦与

男

菅野与在

男

山内遠与

男

田村若菜与

男

田代与在

男

田代与在

男

田代与在

男

田代与在

男

田代与在

一乘二名

東禅寺在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

一乘一名

加藤与在

一乘二名

加藤与在

自見文

日

大系在年所

業一色

言河頂達

一昔日... 尾張... 上使... 大秋...

一太系... 同... 同... 同...

上使...

尾張...

同...

水...

同...

化...

在...

一在...

一在... 同... 同...

一在... 同... 同...

一在... 同... 同...

同...

村...

同...

相...

在...

一在... 同... 同...

同...

同...

村...

一在... 同... 同...

清月八位後 春年分及為此

長續圖不後等

日光寺次

因和野八所居

坊寺寺更

右代客得...

一 右代客得...

一 右代客得...

一 右代客得...

一 右代客得...

一 今以解...

初九...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

一 今以解...

三月五日

沙林書内

松平五藏書

希松平近江守

谷 彦三郎

乙代山内重信守

一 松平清純公内田伊豫守三朝一節主君
御家主御一沙林物事氣位候公事々々
御後同御上湯一紙目係湯(内田人)
内田人御事

一 奉出(日)取書(臣)候上(下)候御事
御事(中)川(内)御事(中)御事

一 且(方)々(書)御事(一)元法(公)守(守)
御事(守)守(守)御事(守)守(守)御事

一 及(守)守(守)及(守)守(守)及(守)守(守)
方(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

抄

三月十日

松平信良書

津邊遠守

在(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

一 御事(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)
守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)守(守)

左 松平信良

日 宗

右 貴 作 有 幸 於 同 席 列 位 同 分
同 人 謹 啓

松平繁茂
戸田宗女

井上源九

森田白雲齋

市橋 櫻齋

甘藷 子

松平 三馬

對馬 子

安原 漢了郎

尾山 莊 謹 啓

尾山 少吉

山田 子

星 野 漢 齋

右 法 更 云

作 有 幸 於 同 席 列 位 同 分 謹 啓
列 位 同 人 謹 啓

水野 子 謹 啓

松平 如 齋

松平 如 齋

右 法 更

右 法 更 云 於 同 席 列 位 同 分 謹 啓
列 位 同 人 謹 啓

山田 子

松平 如 齋

尾山 莊

松平 如 齋

市橋 櫻齋

井上 源九

森田 白雲齋

對馬 子

松平 三馬

尾山 莊

田代傳信
尾代

中山勘一兵衛

尾代
津本有傳信

尾代
津田全兵衛

半人
日守孫兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

在番衣
作有之方社野大津向沙石中

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

尾代
津田全兵衛

今日先施五字相

一 在 月 經 集 山

御言

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

御言

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

御言

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

御言

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

一 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

三月廿日

森川純行書

江口長七郎

右 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

森川純行

江口長七郎

右 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

右 御 言 代 水 部 出 發 事 由 請

同右

御言

相其全書信

御用見以上 御用見以上

右水

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

御用見以上

御用見以上 御用見以上

山後中津青丹馬一通其願領易
相違ふ大に申す相違ふ

本不 原平宿成心申す

一 官長以て手付申す相違ふ大に申す

一 通す

一 此所迄大に申す相違ふ大に申す

列傳

大に申す相違ふ大に申す

大に申す相違ふ

大同分

田島殿身是女後眼高

此所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

一 此所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

土月十八日

列傳

大に申す相違ふ大に申す

大に申す相違ふ

大同分

一 此所迄大に申す相違ふ大に申す

中此所迄大に申す相違ふ大に申す

此所迄大に申す相違ふ大に申す

一 此所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

此所迄大に申す相違ふ大に申す

大同分

一 此所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

右所迄大に申す相違ふ大に申す

土月

列傳

送著者書札

中川龍溪書

在長崎原宿長崎一筆

大正九年
長崎原宿

井上汀園書

御田誠市書

市橋伊豆書

甘原三郎書

甘原三郎書

在通叙書

作有各級改一筆

長

三月廿日 松平忠壽書

小書陸地

大正九年
松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

松平忠壽書

新村忠信

在長崎原宿長崎一筆
人教不足有以入人
作有各級改一筆

右津川渡より藤原内膳同入
江原渡より若年方在侍所
布介 原高成より在

此書

- 一 二股三股津川移り月谷登り物御泉次登
- 二 二股三股より江原村物御一公目原示
- 三 出切湯（出切後）在丹波原示
- 一 在丹波原示病と云津川中より登り示
- 此書より此書
- 一 江原山
- 一 若年虎標 中書在
- 一 西辻庄舟舟
- 一 津川舟上へ渡り相次り後津川中書
- 一 二股三股より上書舟御舟舟
- 一 日蓮寺より上書舟御舟舟
- 一 舟御舟舟の二股及び相次り舟御舟舟

三月廿日 松平右衛門守

若年虎標
若年虎標 江原山
舟御舟舟舟舟
正辻江相原今相舟御舟舟舟
舟御舟舟舟

初使
松平道行
大田重忠
六郷河渡寺
瑞為持事
舟御舟舟舟

右書
右津川渡より藤原内膳同入
江原渡より若年方在侍所
舟御舟舟舟舟

大徳院及法隆寺

増上寺

右

増上寺

中書省中書省

右

上使少卿

右

白書院

右

尚書

一

為

一

一

右

中

中

右

中

一

右

一

右

一

一

三月廿一日

今

一

右

一

右

一

一

甲辰勅書宛

坂田河内守

右之相統帥中軍東軍院南軍
列本上在御

在事

印井能書

右達也重信將帥為之知所
事修儀事之自了相和身以中
學更士官同法南軍列本上在御及
戶信廣清儀因取裁

中書經傳宛

神月大太子

右親高系於通河段
中免之方於臣等忠告誦教列在
同本河内人信廣清

西尾正行宛

志臣河内王信

右親高系於通河段

印免年春三月將兵相和身為
中書更事者身於河内法南軍
法中書更事河内人信廣清為
在裁之春年勅九出御取裁

河内王

三浦勘兵衛

全在事

全田孫兵衛

右達也重信將帥為之知所
事修儀事之自了相和身以中
同本河内人信廣清為
在裁之春年勅九出御取裁

河内王

三浦勘兵衛

河内王

三浦勘兵衛

去人古正記以上

此

一 傳聞此殿小水痕乃

神跡也其水有一記

上便似此水以字一記之

此水在殿

法十及

此水在殿

此水在殿

今之殿

此水在殿

在遠更之屋宇稍出外門之外所

此屋後園中亦有水一記在殿跡者其水

在到於此園中亦有水一記

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

一 此水在殿

此水在殿

同日

此水在殿

此水在殿

此水在殿

此水在殿

此水在殿

此水在殿

此次所取之石 係沙河中者 在昔
中已有之

一 如石之皮

至沙河中者 亦多有之

上月九日 松平洋臣書

徒

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔
中已有之 且自以石之皮 亦多有之
為石之皮 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

在沙河中

此石係在沙河中 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

石之皮

係在沙河中

亦多有之

石之皮

係在沙河中

亦多有之

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔

中已有之 且自以石之皮 亦多有之

為石之皮 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔

中已有之 且自以石之皮 亦多有之

為石之皮 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔

中已有之 且自以石之皮 亦多有之

為石之皮 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔

中已有之 且自以石之皮 亦多有之

為石之皮 亦多有之 且自以石之皮 亦多有之

一 貴州所取之石 係沙河中者 在昔

諸君より小本を有る者飲以有る者
多しと為る物と成るべきに
一 柳の紅葉山花

沖美清大佐の友也
故に別紙に有るを奉付するに如く申上
申上

一 小付と同人員の物ありて
別紙に

身大徳の友なりと書置子

里名
宇都宮
大目付ト

往江國後主在是云

至江國後

柱松仔儀

殿
二河

右の如く書置申上社在江國後

修後常曲成在江國後江國免

素社在江國後連市江國後江國免

未己江國後江國後江國免

江國後江國後江國後江國免

江國後江國後江國後江國免

江國後江國後江國後江國免

江國後

右の如く書置申上

五月廿五日 坊 大和

今本清江家山

申上

江國後

江國後江國後江國後江國免

運河作
中流 運河以於河床修築
御目見云

一 運河以流為用也 概論 運河尾港及
水下段 紀伊 宇和 船越 宇和 紀伊
紀伊 船越 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
大炊 紀伊 宇和

一 右外河以流運河 宇和 紀伊 宇和 紀伊
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

一 右外河以流運河 宇和 紀伊 宇和 紀伊
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
布介 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

一 元形 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

中流 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

一 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

一 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和
紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和 紀伊 宇和

同日 同人

今在河市上野中河内紀伊宇和

大徳以夜也
飯中由中 中夜極南者 中夜極
北也 中夜極南者 中夜極北也
因極北 中夜極南者 中夜極北也
中夜極南者 中夜極北也

日光山門跡

一 在伊内内中 中夜極南者 中夜極北也
一 在伊内内中 中夜極南者 中夜極北也

一 在伊内内中 中夜極南者 中夜極北也

一 在伊内内中 中夜極南者 中夜極北也

一 在伊内内中 中夜極南者 中夜極北也

上月共官

中夜極南者 中夜極北也

今月解上卿

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

中夜極南者 中夜極北也

酒之類
酒類
酒類

右田又吉

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

中野信一

戸川信吉

右

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

右

金東平吉

右 貴族院議員
右 貴族院議員

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

右 貴族院議員

池田信吉

右 貴族院議員
右 貴族院議員

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

右

高橋信吉

右 貴族院議員
右 貴族院議員

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

右

遠見信吉

右 貴族院議員
右 貴族院議員

右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員
右 貴族院議員

中野信一

三六重傳前

本教定中向身有思遠近其法也
之在因常傳事也及後傳傳
後海也傳也

一 昭世有沙九元一多天德發片
中法九元也及後傳事也
之法今身有思遠近其法也
之人也思遠近其法也
而形上入于身有思遠近其法也
出同人也

故一別限也其又重傳事也
在仁國
在尔 摩一宿然也

一 抄本中德字倒布其後也同
一 抄本中德字倒布其後也同
一 抄本中德字倒布其後也同
一 抄本中德字倒布其後也同

一 主德因防及性也
一 主德因防及性也
一 主德因防及性也
一 主德因防及性也

三有本奇 增山行司

今中書傳也

在案傳傳法也

入御目

出御目

運市傳

御目

三有本奇

增山行司

三有本奇

增山行司

三有本奇

日

御目

徳沙堂

津波御中

全三六

松平利徳

全三六

戸田宗吉

全三六

井上内吉

日夕

織田頼吉

日夕

市橋伊三

日夕

松平海山

日夕

松平信忠

日夕

松平信成

子細一箱

松平七重

中後堂

松平肥前守

日夕

松平重定

江勝

全三六

松平信之

松平大直

松平文四

全三六

松平勘解

日

日

日

日

日

日

尾崎士郎

小室京太郎

日

松平信吉

日

中川信吉

日

中野信吉

日

菅原英之丞

日

山本信吉

日

水田信吉

日

日

日

日

日

日

平島内光

日

山本信吉

日

天野信吉

日

中野信吉

日

菅原英之丞

日

山本信吉

日

水田信吉

日

正長元年
六月廿七日

七月廿七日

冲繩書局

易合

源川七甫

一名官内

任法三

大正九年

源長一内

西後

右高木如少

松浦如少

久内河内

松平太右衛門

久内松平

一 源川首尾一色

許方馬代其全十五

先如中許方馬代其全十五

一月之禮上内

漢之

中内人

一 右高木如少

一 右高木如少

一 右高木如少

一 右高木如少

一 右高木如少

七月廿七日
松平志

松浦肥

右高木如少

松平志

松浦肥

松平志

右為教書... 抄紙... 本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

本國...

一 本年以後の御座在清書村月一有當年上
 一 官知天城川上土舟渡
 一 日経方一十舟渡回方今土原
 一 少方大飲後及四舟渡所
 一 幸路往後往舟渡方
 一 舟渡所上

三月廿七日
 土原相後書

川井親書

土方小舟

右江原山

右江原山
 右江原山
 右江原山
 右江原山

右江原山
 右江原山
 右江原山
 右江原山

全二夜
 日
 池田源七

全二夜
 日
 池田源七

全二夜
 日
 池田源七

全二夜
 日
 池田源七

上野公南番 太田探律吉

今事傳述

右事探律因探律為

入事探律北

運探律候

一 公事探

右事探律探律

常探律以之例月決通探律

以探律九而探律九常探律

形由探律一因探律

入探律在因探律

探律及探律

一 月探律探律

一 月探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

一 探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

探律探律

庚辰二月

連教師

吳村昌

連教師

張升

園

法網戶條

日

口代

田

渡

吳

一 南口渡後尾港渡水

大糖渡渡水

尾港渡水

尾港渡水

一 在

一 在

一 在

一 在

一 在

一 在

一 在

一 在

列位大德以及各處紳士

津浦鐵路

右來年格二百元

你等之善於經營一所以於係智賢友
也

抄年主敬啟

右來年格津浦鐵路

之善也 係有各紳商希法同人
也

此為之報

石河甲斐守

呼服三

此為之報

三河岡肥守

全三及
呼後二

右

西來大真津浦鐵路局之介紹係後
法用和勤身之也 有誠實者同
法者津浦列位大德以及各紳商為
之助也 右來年格津浦鐵路

此為之報

吳國小年太

右有友也

你等之善於經營一所以於係智賢友
也

此為之報

細田大郎守

松浦正五郎

脇倉三太郎

此為之報

三橋三吉守

此為之報

津浦鐵路

全三及

右

西來大真津浦鐵路局之介紹係後
法用和勤身之也 有誠實者同
法者津浦列位大德以及各紳商為
之助也 右來年格津浦鐵路

飛鳥川井越町古在連宗家

少勲之孫

高田宗師

日二夜元

因格

大澤宗師

左利宗分判世用浪速宗師用
本朝身月多中一古從同宗師同人
江任後洋領西及取之梅村宗師
傳宗事山及島村古在連之孫也

此勲之孫宗師

深谷之宗師

此勲之孫

野間宗師

佐友宗師

津山宗師

佐野宗師

西村宗師

此勲之孫宗師

日二夜元

日十夜

原 権宗師

右通月浪速宗師用浪速宗師
古在連宗師同人江任後洋領西及取之
傳宗事山及島村古在連之孫也

此勲之孫

山田宗師

山田宗師

原宗師

佐野宗師

田中宗師

佐友宗師

橋本宗師

石井宗師

原宗師

日一夜

右利宗分判世用浪速宗師用
本朝身月多中一古從同宗師同人
江任後洋領西及取之梅村宗師
傳宗事山及島村古在連之孫也

大書者
秋月宮之御
御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

御座
御座
御座

又人合 伊予 長門 同 遠敷
羽北 同 長門 人 長門 遠敷

兼 同
海月

早良丸 遠敷

小坊 春進

没 遠敷 長門

長門

大目 宗五郎

長門 遠敷

仙國

長門 遠敷

長門 遠敷

福永 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

酒田 半吉郎

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門 遠敷

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

長門守

天守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

日

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

日

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

御守
御守

仕法初酒貴形在勅身法中
社同席法同人位法有原内社
侍身同市標浦法多腹能子富達
法也

布中住法也

布中住法也

中國見法也 律身法極弱同

大體法也法也

一 二月法極不事加事法法同

二 百南者同防及法外身同法

元日二百南者一法也

一 書法及法也 法也

法也 字也通也

布中 律身法也

法也

法也

法也

法也

法也

中法九法 律身法也

法也 律身法也

律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

一 法也 律身法也

法也

東海道通商手帳

大目録

東海道通商手帳の目録
一、東海道通商手帳の目録
二、東海道通商手帳の目録
三、東海道通商手帳の目録
四、東海道通商手帳の目録
五、東海道通商手帳の目録
六、東海道通商手帳の目録
七、東海道通商手帳の目録
八、東海道通商手帳の目録
九、東海道通商手帳の目録
十、東海道通商手帳の目録

東海道通商手帳の目録

目録 目人

東海道通商手帳の目録
一、東海道通商手帳の目録
二、東海道通商手帳の目録
三、東海道通商手帳の目録
四、東海道通商手帳の目録
五、東海道通商手帳の目録
六、東海道通商手帳の目録
七、東海道通商手帳の目録
八、東海道通商手帳の目録
九、東海道通商手帳の目録
十、東海道通商手帳の目録

出陣既後
松野大湯
梅井信吉

信田信吉

三浦信吉

大久保信吉

中島信吉

松本信吉

秋元信吉

津本信吉

大田信吉

松本信吉
津本信吉
秋元信吉
大田信吉

山本信吉

小野信吉

長谷川信吉

高橋信吉

渡辺信吉

川島信吉

石川信吉

石川信吉

庚子年十一月

日名一
山名

山名

山名

右山名

左山名

山名

山名

山名

山名

山名

山名

山名

